

「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」 結果概要

2015.02

株式会社日本総合研究所
総合研究部門 社会・産業デザイン事業部
アジア消費者研究会

目次

1. 調査概要	2
2. 調査トピックの全体像	4
3. 本調査のユニークな特徴	5
4. 調査結果	6
4-1. 世帯の特徴	7
4-2. 時間の使い方	33
4-3. 幸福感	37
4-4. 消費行動 医療	42
4-5. 消費行動 健康	53
4-6. 消費行動 住まい	59
4-7. 消費行動 インフラ	69
4-8. 消費行動 観光	76
4-9. インフラ満足度	81
5. お問い合わせ	85

1. 調査概要

アジア主要都市における「中間層(世帯年間可処分所得5,000～35,000USDドル)」以上の消費動向を、わが国(東京)と比較分析するため、約7,000人に対してアンケートを実施。

- 調査目的: アジア主要都市ボリュームゾーン消費者の消費動向・消費価値観を、東京と比較分析すること
- 調査方法: インターネット調査
- 調査時期: 2013年11月
- 調査地域: 東京、上海、北京、広州、ムンバイ、デリー、シンガポール、クアラルンプール(スランゴール州含む)、バンコク、ジャカルタ、ホーチミン、ハノイ、マニラの13都市
- 調査対象: 経済産業省「通商白書2009」で定義された分類に倣い、「中間層」(世帯年間可処分所得5,000～35,000USDドル)以上の20～40代男女を調査対象に設定。なお、調査結果の比較のしやすさを重視して、現地物価水準での調整等を行っていない。
- 回答者数: 計7,187人
各都市500人(性年代別均等割付)を回収目標とし、各都市で500人を超えたサンプルについても、分析対象とした。ただし、マニラの男性・女性40代、ハノイ、ホーチミンの女性40代は回収目標に満たなかったため、回答者数の補正処理(ウェイトバック)を行って集計している。(次ページ参照)

(参考)都市別回答者数

(人)

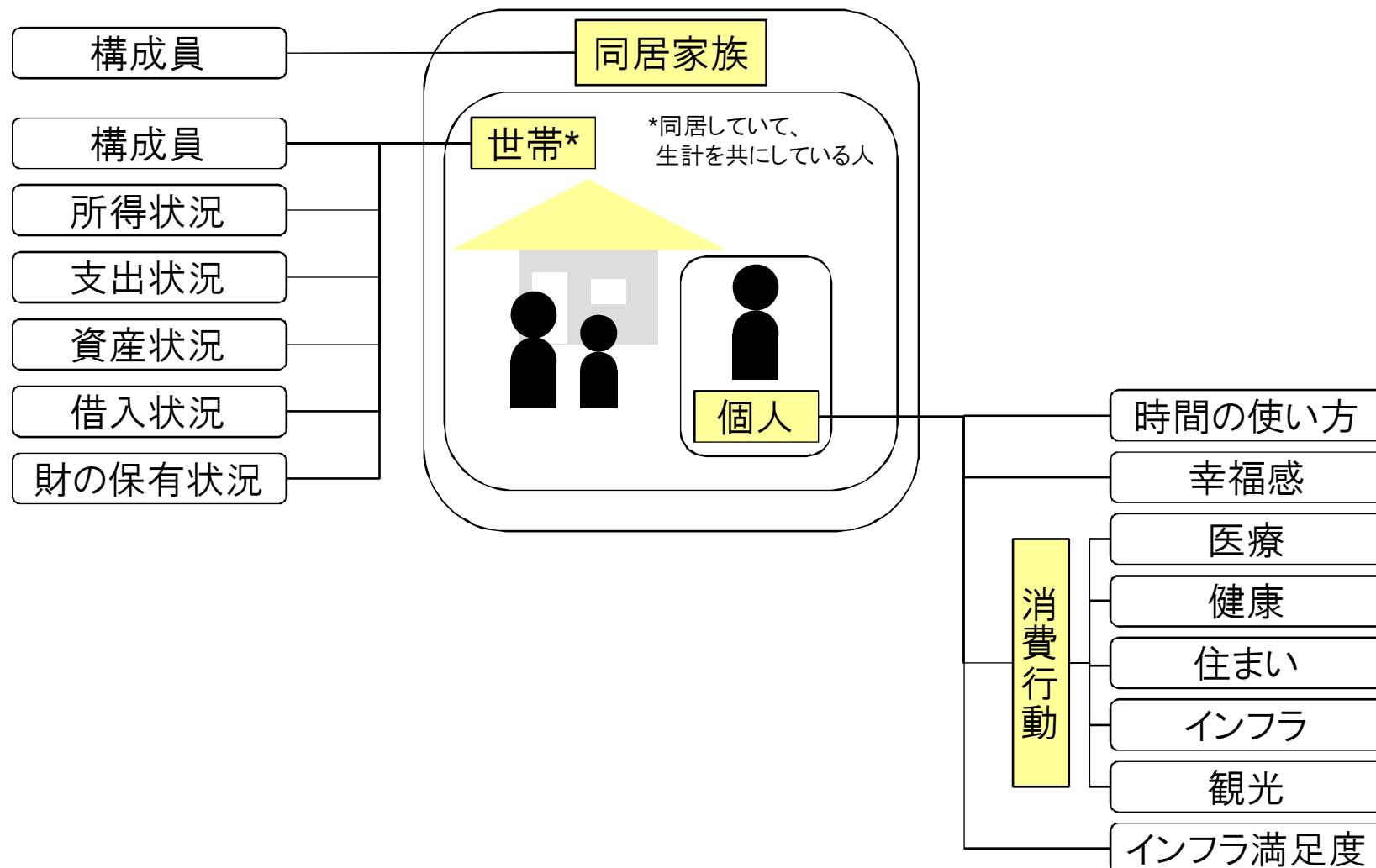
年代	性別	北京	上海	広州	デリー	ムンバイ	ジャカルタ	ハノイ	ホーチミン	シンガポール	クアラルンプール	マニラ	バンコク	東京	合計
20代	男性	95	92	93	85	88	95	101	97	87	84	93	93	88	1,191
	女性	93	93	93	86	86	87	101	96	91	87	94	97	90	1,194
30代	男性	93	93	93	92	87	93	97	99	96	88	95	95	93	1,214
	女性	93	93	93	89	84	91	95	98	98	94	101	97	95	1,221
40代	男性	92	93	93	86	86	94	93	95	94	84	83*	93	92	1,178
	女性	93	93	93	98	97	85	83*	83*	94	95	83*	96	95	1,189**
合計		559	557	558	536	528	545	570	568	560	532	550**	571	553	7,187

*マニラの男性・女性40代、ハノイ、ホーチミンの女性40代は回収目標に満たなかったため、回答者数の補正処理(ウェイトバック)を行い、83人として集計している。

**補正処理(ウェイトバック)の結果に端数処理(四捨五入)をしているため、各セルの合計値と合計は一致しない。

2. 調査トピックの全体像

調査対象各都市において、調査対象者の属する「同居家族」「世帯*」の状況と、調査対象者「個人」の消費行動や価値観について調査を実施した。



3. 本調査のユニークな特徴

アジア9ヶ国のホリウムゾーン消費者の消費行動や生活情報を、都市単位かつ約7,000サンプルの大サンプルで調査。得られた結果は、都市間の比較が可能である。

アジア市場進出を検討する企業が 必要とする消費者に関する情報	既存データ・調査結果の 問題点	本調査の特徴
1 各国の都市レベルの情報 - 進出当初から各国全土に展開することは難しい。 - まずは各国の主要都市でターゲットとなる消費者情報を把握したい。	- 国単位のデータが多く、都市に落とし込んだ具体的な検討に活用することが困難。 - 都市レベルのデータがあっても、サンプル数が限られる。	中間層を対象とした都市レベルの大サンプル調査 - アジア主要都市レベルで、近年注目が高まる「ホリウムゾーン消費者」を対象に調査を実施。 - 約7,000サンプルの大サンプルで把握。（1都市当たり500サンプル以上）
2 日本や既進出国・都市との比較情報 国内や既進出先での自社商品の展開が、新規進出先でどの程度通用しそうか、を把握するために、各国の横並びでの情報を知りたい。	複数の都市を横並びで比較した調査は多くない。	東京を含むアジア9カ国・13都市にて調査 - 言語間の等価性に考慮して調査を実施したため、都市間の結果比較が可能 - 東京も調査対象都市としているため、アジア消費者の消費実態を直感的に把握可能
3 消費行動及びその背景にある消費者情報 - 自社商品に関わる消費行動を把握することはマーケティング戦略の検討に必須。 「なぜ、そうなのか」を理解し、より深い検討をするためには、背景情報が必要。	アジアの都市レベルで、消費行動やその背景となる生活情報まで分析できるものは少ない。	暮らし方や生活意識についても調査 消費行動だけでなく、各都市消費者の「世帯の特徴」、「時間の使い方」、「幸福度」等、消費行動の背景となる情報を調査。

4. 調査結果

4-1. 世帯の特徴

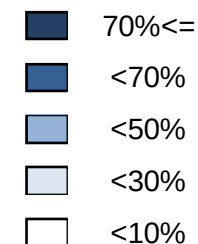
「世帯*の特徴」サマリー(世帯構成)

東京を除く12都市では、子供がいる共働きの核家族またはDINKSの世帯が中心で、共働き比率は5割を超えている。
 東京は、一人暮らし世帯の多さと共働き比率の低さで際立っている。

	世帯人数				世帯世代数			共働き 比率	特徴
	1	2	3	4~	1	2	3~		
北京	4	31	50	15	36	56	8	87	子供のいる共働きの核家族世帯が多く、一人っ子政策の影響により、3人世帯が多い。
上海	2	37	44	17	40	51	9	86	
広州	3	32	35	29	39	51	11	90	
デリー	13	34	14	39	46	45	9	78	- 子供のいる共働きの核家族、または、DINKSの世帯が多い。 - 子どもの人数は複数人が多いと推察される。
ムンバイ	16	33	16	36	45	45	10	76	
ジャカルタ	6	21	30	43	44	41	14	92	- 子供のいる共働きの核家族、または、DINKSの世帯が多い。 - 世帯に3世代以上が含まれる比率が最も高い。
ハノイ	5	26	23	46	38	55	8	61	
ホーチミン	7	25	22	46	40	51	8	68	子供のいる共働きの核家族世帯が多く、子どもの人数は複数人が多いと推察される。
シンガポール	14	41	21	24	52	44	4	65	
クアラルンプール	17	37	18	28	59	38	3	75	DINKS世帯が多い。
マニラ	10	33	22	34	52	45	3	70	
バンコク	7	31	22	40	47	46	7	86	- 子供のいる共働きの核家族、または、DINKSの世帯が多い。 - 子どもの人数は複数人が多いと推察される。
東京	36	26	17	20	60	40	1	45	

*同居していて、
生計を共にしている人

凡例:



次世代の国づくり

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

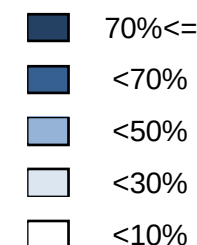
「世帯の特徴」サマリー(世帯支出)

インド2都市、ジャカルタ、ベトナム2都市、マニラは下位中間層世帯、中国3都市は上位中間層世帯が中心。
クアラルンプールとバンコクは中間層がほぼ均一に分布。世帯支出は、各都市の社会や文化を反映している。

	所得層*分布			副収入 あり比率	世帯支出	
	下位中間層	上位中間層	富裕層		衣食住支出の特徴	衣食住以外の支出の特徴
北京	29	60	12	79		
上海	21	66	13	83	• 衣類・履物支出が高い (約3割)	• 投資支出比率が高い (約2割)
広州	31	61	8	85		
デリー	64	29	7	67	• 衣類・履物支出が高い (約3割)	
ムンバイ	65	27	8	61	• 住宅賃料がやや高い (約2割)	
ジャカルタ	75	18	6	94	• 衣類・履物支出が高い (約3割)	—
ハノイ	87	12	1	80		• 教育支出比率が高い (約2割)
ホーチミン	75	21	4	83	• 食費比率が高い (約7割)	
シンガポール	19	33	48	47		• 保険支出比率が やや高い (約1.5割)
クアラルンプール	48	41	11	65	• 住宅賃料比率がやや高い (約2割)	• 教育支出比率が高い (約2割)
マニラ	61	31	8	78	• 食費比率が高い (約7割)	—
バンコク	47	45	7	85		• 投資支出比率が低い (約0.5割)
東京	10	40	51	34	• 住宅賃料比率が高い (約4割)	

*所得層
経済産業省
「通商白書2009」の分類に倣い、
世帯年間可処分所得が
5,000-15,000USD未満を
下位中間層、
15,000-35,000USD未満を
上位中間層、
35,000USD以上を
富裕層と定義。

凡例:



「世帯の特徴」サマリー(資産/借入金の状況)

インド2都市とジャカルタは、保有資産種類の幅、保有意向とも他都市を上回っており、資産の保有に積極的。現在の借入金の目的は、住宅購入と自動車購入に限定されているが、今後は目的が拡大し、特にジャカルタやバンコクでは借入が多く発生すると見込まれる。

資産	保有状況	- すべての都市において、現金資産が5割以上の世帯で所有されている。 - 保険/年金商品は東京、住居用戸建住宅はシンガポール、東京を除く都市で3割以上が所有している。 - インド2都市とジャカルタは、他の都市に比べ幅広い種類の資産を保有している。
	保有意向	- インドの2都市、ジャカルタでは、すべての資産項目について所有意向が5割を超えており、マニラやクアラルンプール、ホーチミンでも、多くの資産項目で所有意向が5割を超えている。 - 東京はその他の都市と比べ、資産の所有意向が非常に低い。
借入	借入状況	現在の借入金は、住宅購入と自動車購入が主な目的だが、クアラルンプールでは教育目的、バンコクでは日常の生活費目的の借入も3割弱発生している。
	借入意向	- 今後は、住宅購入と自動車購入以外の目的の借入も発生する。 - 特に、ジャカルタやバンコクでは借入が多く発生すると見込まれる。

「世帯の特徴」サマリー(耐久消費財)

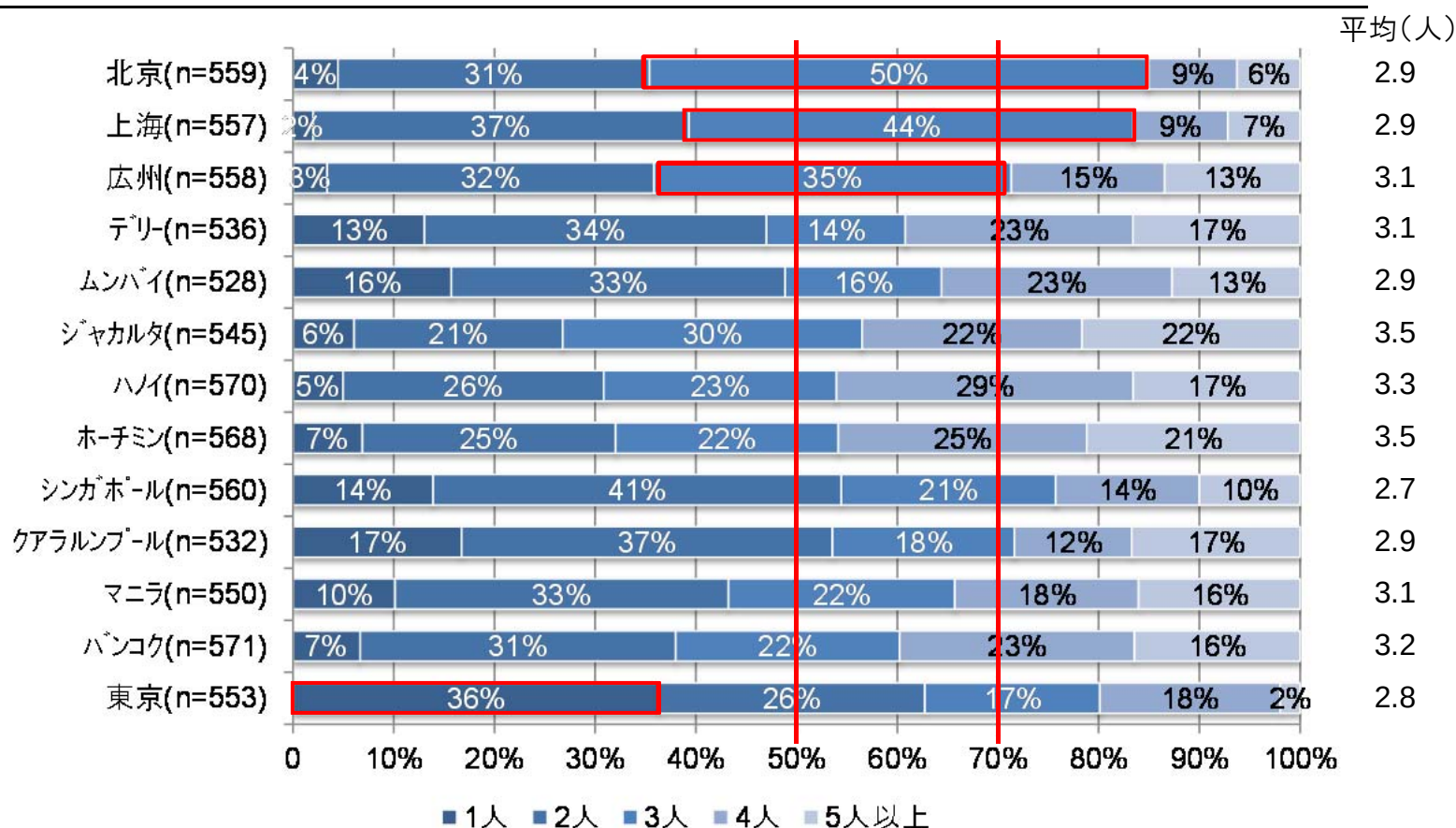
ベトナム2都市は現在の自動車所有率は低いものの、所有意向は非常に高く、将来的には東京、シンガポールを除くアジア都市では自動車普及が加速する可能性が高い。基本家電やエアコン、パソコンは一通り揃っているが、台所家電については今後普及の余地がある。

自動車・バイク	自動車・バイク 所有状況	- ベトナム2都市はバイク所有、中国3都市、クアラルンプール、シンガポールは自動車所有がメイン。 - 将来は、ベトナムの2都市では自動車の所有が進み、現在のジャカルタと同じく、自動車とバイクを使い分けるようになると考えられる。
	自動車の 購入意向	- 中国3都市は、所有世帯で約5割、非所有世帯では6割を超える高い購入意向がある。 - インド2都市、ベトナム2都市、マニラ、バンコクでも、非所有世帯では7割を超える高い購入意向がある。 - 東京は、非所有世帯の購入意向が8%となっており、選択的に自動車を所有していないことがわかる。
	電気自動車の 購入意向	- 中国3都市では、電気自動車よりも自動車を希望する人が30ポイント近く多くなっている。 - ジャカルタやバンコクでは、電気自動車を希望する人が多い。 - インド2都市、クアラルンプール、マニラでも、電気自動車は自動車購入時の選択肢となっている。
家電	基本家電の所有	- 基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV*)を全て所有している比率は、ジャカルタとバンコクを除き7割を超える。 *TVは、ブラウン管または薄型のどちらか一方でも所有している世帯
	エアコンの所有	エアコンはすべての都市で所有率が7割を超えている。
	パソコンの所有	デスクトップ型、ノート型パソコンの所有率は、ジャカルタを除き8割を超えている。
	台所家電の所有	- 電子レンジは、ジャカルタを除くすべての都市で所有率が6割を超えている。 - 一方、食器洗い機は所有率の高い都市でも4割程度であり普及が遅れている。

世帯人数(Q6)

シンガポール、クアラルンプール、東京は、2人以下世帯が多く、特に東京は1人世帯が1/3以上ある。その他都市は3人以上の世帯が5割を超えており、一人っ子政策を反映して3人世帯が多い中国3都市以外は、3割が複数子がいると想定される4人以上の世帯である。

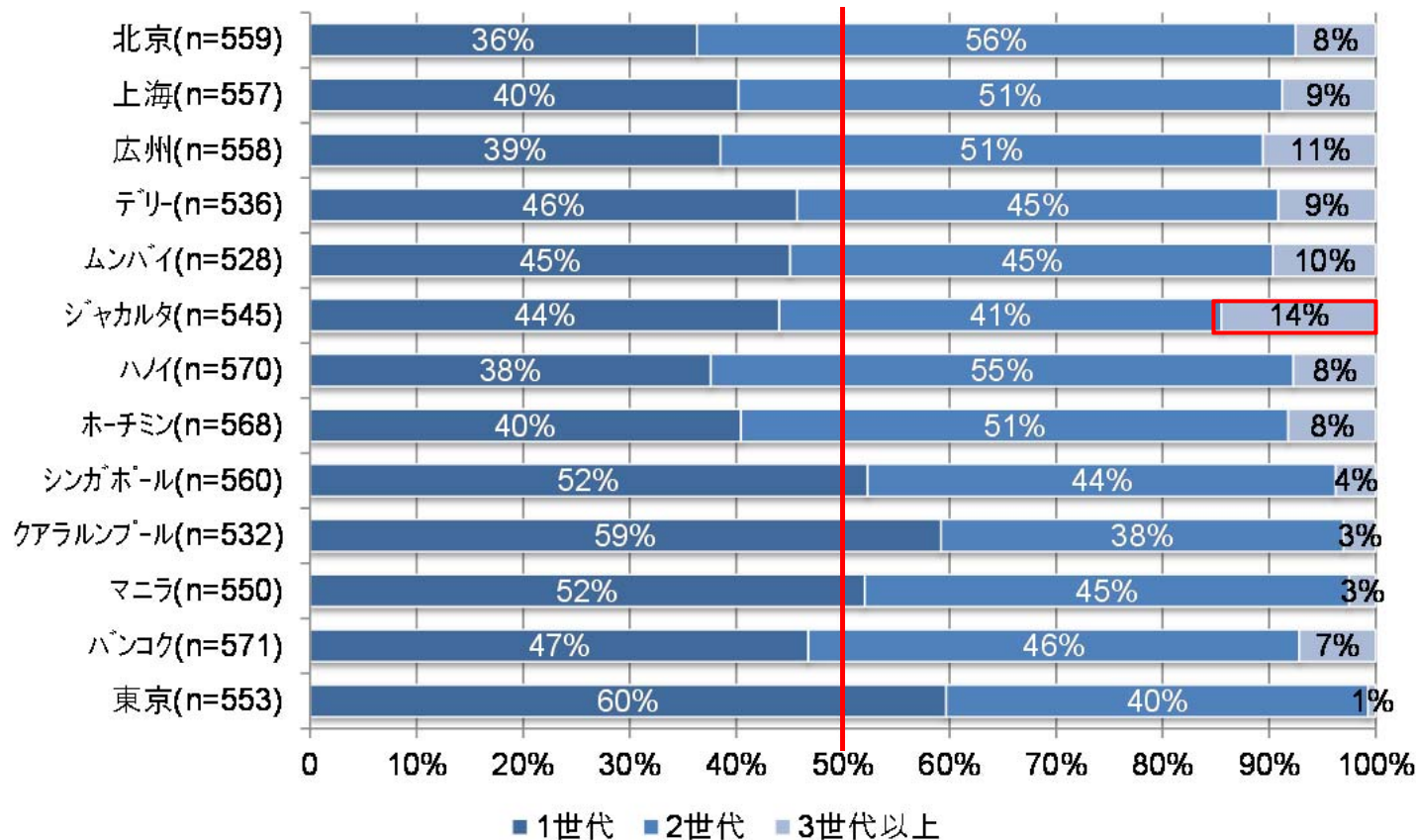
Q.生計を共にされている方々の人数(あなたを含む)をお答えください。



世帯世代数(Q7)

シンガポール、クアラルンプール、マニラ、東京では1世代世帯が5割を超え、1人暮らし、夫婦世帯が多い。中国3都市とベトナム2都市では、2世代以上世帯が中心。インド2都市とジャカルタ、バンコクは1世代世帯と2世代世帯が均衡し、ジャカルタでは3世代以上世帯も約1.5割存在する。

Q.生計を共にされている方々の人数(あなたを含む)をお答えください。



世帯年収(Q8)

インド2都市、ジャカルタ、ベトナム2都市、マニラは税引き前年収が200万円未満、中国3都市は200-500万円未満、クアラルンプール、バンコクは100-350万円未満、シンガポール、東京は500万円以上が中心世帯。

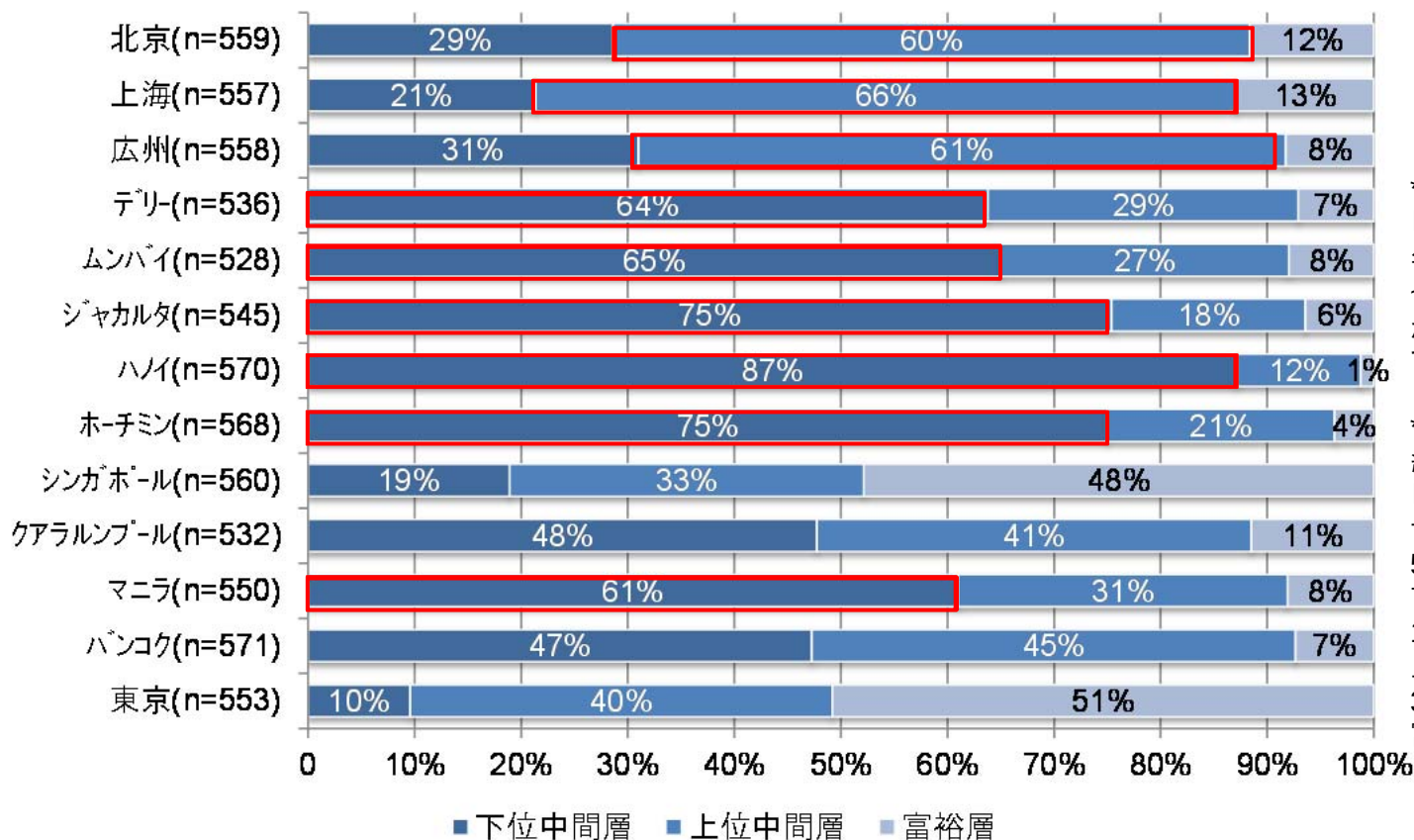
Q.あなたの世帯の税引き前年収(過去1年間2012年11月~2013年10月)はどの程度ですか。

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガポール (n=560)	クアラル ンプール (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
70-100万円未満	6%	2%	5%	26%	34%	23%	61%	45%	11%	13%	30%	17%	2%
100-200万円未満	23%	19%	26%	38%	31%	52%	26%	30%	8%	35%	31%	30%	7%
200-350万円未満	34%	39%	35%	19%	21%	15%	9%	15%	16%	31%	20%	37%	16%
350-500万円未満	25%	27%	26%	10%	6%	3%	2%	6%	18%	10%	11%	8%	24%
500万円以上	12%	13%	8%	7%	8%	6%	1%	4%	48%	11%	8%	7%	51%

年間可処分所得*(Q8)

インド2都市、ジャカルタ、ベトナム2都市、マニラは下位中間層世帯、中国3都市は上位中間層世帯が中心。
 クアラルンプールとバンコクは中間層がほぼ均一に分布。

年間可処分所得による所得層**区分



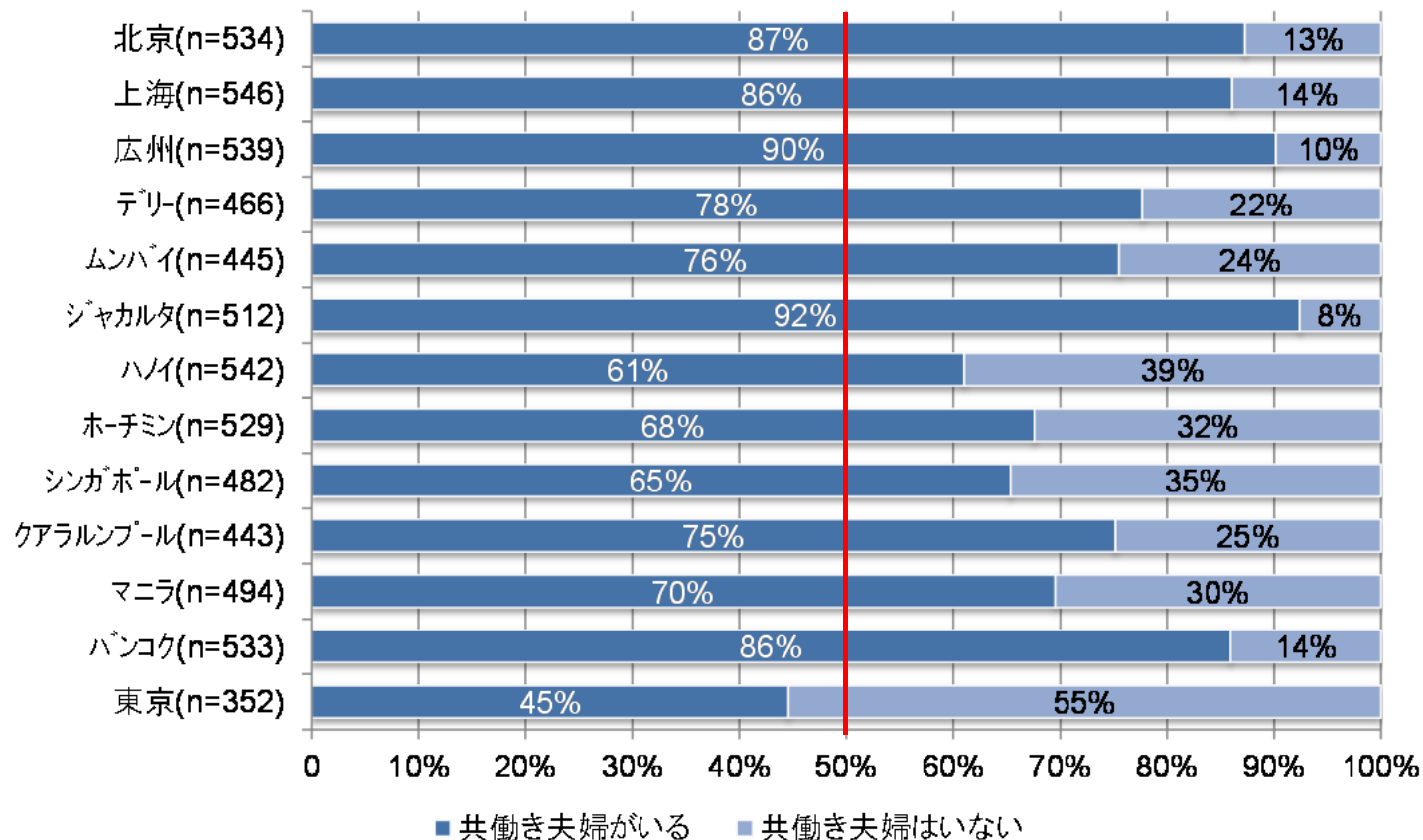
*可処分所得
 「Q8.あなたの世帯の税引き前
 年収(過去1年間2012年11月
 ~2013年10月)はどの程度です
 か。」における回答を一定の比率
 で割戻して算出。

**所得層
 経済産業省
 「通商白書2009」の分類に倣い、
 世帯年間可処分所得が
 5,000-15,000USD未満を
 下位中間層、
 15,000-35,000USD未満を
 上位中間層、
 35,000USD以上を
 富裕層と定義。

共働き夫婦の有無(Q9)

東京を除く全ての都市で、共働き比率が5割を超えている。
東京の共働き比率は13都市中最も低い。

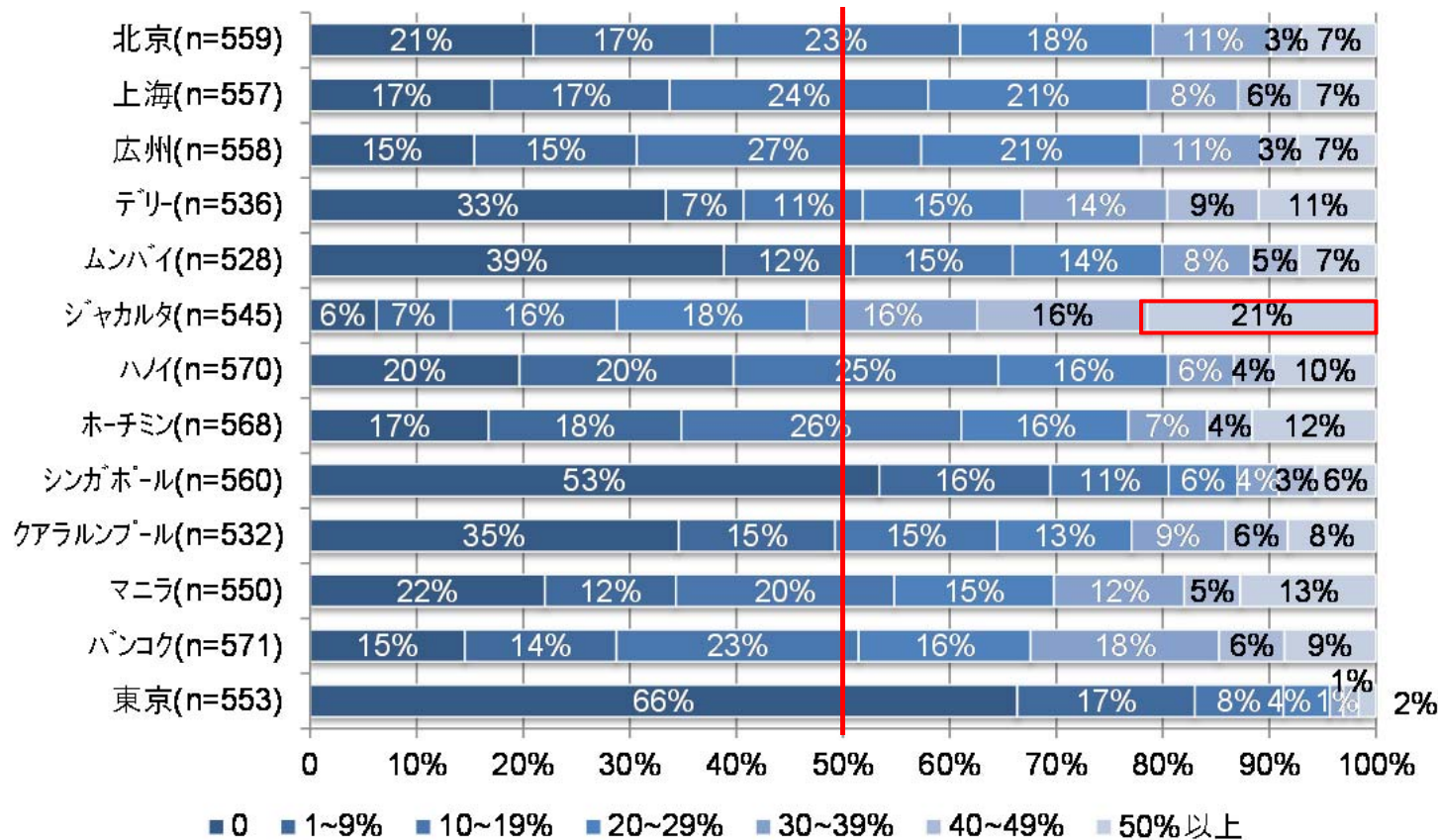
Q.あなたの世帯に共働きの夫婦はいらっしゃいますか。(二人以上世帯)



世帯副収入比率(Q14)

東京、シンガポールを除く都市では、副収入のある世帯が副収入のない世帯を上回っている。
 特に、ジャカルタでは副収入が世帯の重要な収入源となっており5割を超える世帯も約2割存在する。

Q.あなたの世帯全体の副収入の割合についてお考えください。



資産保有の有無(Q15)

すべての都市において、現金資産が5割以上の世帯で所有されている。

保険/年金商品は東京、住居用戸建住宅はシンガポール、東京を除く都市で3割以上が所有している。

インド2都市とジャカルタは、他の都市に比べ幅広い種類の資産を保有している。

Q. 2014年11月1日現在、あなたの世帯では、次の中にある資産を保有していますか。

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
手元にある現金	91%	89%	89%	84%	77%	62%	84%	84%	73%	72%	84%	59%	74%
手元にある金	35%	40%	39%	74%	70%	57%	64%	61%	29%	42%	20%	49%	5%
自宅以外にある預貯金	55%	58%	53%	50%	54%	70%	52%	53%	64%	64%	55%	59%	66%
自宅以外にある金	10%	11%	14%	34%	35%	33%	11%	15%	7%	21%	2%	12%	3%
保険/年金商品	56%	56%	54%	57%	60%	57%	32%	32%	63%	63%	41%	30%	27%
株式/投資信託	61%	70%	66%	47%	55%	32%	25%	24%	54%	54%	30%	26%	29%
債券	23%	24%	22%	34%	33%	9%	9%	9%	15%	9%	9%	9%	7%
住居用土地	10%	11%	15%	38%	38%	45%	59%	65%	5%	24%	55%	41%	13%
居住用戸建住宅	53%	59%	58%	42%	45%	50%	53%	61%	24%	52%	56%	49%	15%
居住用集合住宅	14%	20%	13%	20%	27%	11%	20%	20%	40%	25%	10%	9%	14%
投資用土地	3%	5%	6%	12%	15%	15%	12%	14%	1%	6%	12%	8%	1%
投資用戸建住宅	16%	16%	19%	10%	12%	16%	13%	18%	4%	11%	7%	8%	1%
投資用集合住宅	3%	5%	3%	7%	6%	7%	4%	5%	7%	11%	6%	6%	3%
その他	3%	3%	2%	4%	3%	7%	16%	20%	3%	5%	9%	3%	4%
ない	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	2%	1%	2%	9%	6%
分からない	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	2%	0%	1%	1%	3%

<30% <50% <80% 80%<=

次世代の国づくり

出所：日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

資産保有意向(Q17)

インドの2都市、ジャカルタでは、すべての資産項目について所有意向が5割を超えており、マニラやクアラルンプール、ホーチミンでも、多くの資産項目で所有意向が5割を超えている。東京はその他の都市と比べ、資産の所有意向が非常に低い。

Q. あなたの世帯の今後の資産の所有意向をお答えください。

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ ルンプール (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
手元にある現金	77%	75%	75%	86%	84%	79%	78%	82%	57%	72%	87%	79%	27%
手元にある金	59%	62%	64%	82%	83%	79%	74%	73%	37%	58%	46%	74%	9%
自宅以外にある預貯金	72%	71%	69%	75%	76%	88%	71%	70%	65%	79%	81%	78%	38%
自宅以外にある金	49%	49%	55%	65%	67%	74%	49%	50%	30%	56%	44%	51%	9%
保険/年金商品	64%	66%	65%	71%	71%	76%	53%	53%	51%	64%	75%	62%	15%
株式/投資信託	66%	69%	69%	70%	71%	70%	44%	42%	59%	73%	75%	55%	25%
債券	52%	53%	56%	66%	66%	60%	35%	33%	39%	47%	63%	41%	13%
住居用土地	33%	30%	37%	65%	61%	79%	65%	68%	21%	53%	74%	55%	8%
居住戸建住宅	51%	48%	57%	61%	61%	79%	60%	65%	29%	65%	76%	62%	9%
居住用集合住宅	38%	38%	41%	57%	62%	61%	49%	53%	35%	58%	58%	38%	13%
投資用土地	30%	27%	34%	55%	55%	69%	43%	49%	22%	49%	63%	41%	5%
投資戸建住宅	37%	35%	44%	55%	54%	72%	45%	50%	27%	59%	63%	41%	5%
投資用集合住宅	31%	29%	33%	52%	51%	64%	41%	44%	33%	59%	60%	39%	7%
その他	28%	23%	27%	34%	26%	43%	41%	40%	14%	30%	39%	34%	3%

<30%
<50%
<80%
80%<=

借入金の有無と今後の借入意向(Q18/Q20)

現在の借入金は、住宅購入と自動車購入が主な目的だが、

今後はこれ以外の目的の借入も発生し、特にジャカルタやバンコクでは借入が多く発生すると見込まれる。

－ クアラルンプールでは教育目的、バンコクでは日常の生活費目的の借入も3割弱発生している。

Q. 2014年11月1日現在、あなたの世帯では、次の中にある借入金がありますか。(上段)

Q. あなたの世帯の今後の借入意向をお答えください。(下段)

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
【借入金の有無】													
住宅購入目的	45%	48%	51%	55%	60%	46%	37%	40%	52%	72%	32%	52%	24%
自動車購入目的	22%	22%	26%	49%	48%	35%	26%	23%	33%	73%	28%	49%	5%
自動車以外の乗り物購入目的	4%	4%	4%	9%	8%	16%	12%	15%	3%	10%	8%	9%	1%
教育目的	9%	9%	11%	19%	12%	17%	13%	18%	11%	29%	23%	21%	4%
治療目的	6%	7%	7%	7%	4%	9%	9%	9%	5%	11%	11%	14%	2%
日常の生活費目的	8%	9%	11%	5%	4%	9%	11%	9%	7%	13%	20%	28%	5%
その他	1%	1%	1%	2%	3%	4%	13%	12%	5%	6%	9%	5%	3%
ない・分からない	46%	44%	41%	27%	22%	32%	34%	34%	32%	5%	30%	16%	65%
【今後の借入意向】													
住宅購入のため	56%	55%	62%	70%	63%	81%	65%	64%	44%	72%	71%	70%	15%
自動車購入のため	41%	43%	47%	68%	69%	74%	55%	49%	35%	64%	68%	71%	9%
自動車以外の乗り物	18%	21%	23%	41%	34%	61%	29%	35%	16%	31%	37%	49%	5%
教育のため	27%	31%	35%	43%	39%	63%	34%	35%	23%	41%	50%	54%	5%
病気・けがの治療のため	23%	26%	30%	35%	31%	57%	27%	27%	16%	34%	38%	54%	4%
日常の生活費のため	21%	24%	29%	33%	26%	50%	20%	24%	16%	28%	39%	56%	5%
その他	18%	18%	20%	27%	20%	40%	31%	30%	10%	20%	24%	35%	3%

<30% <50% <80% 80%<=

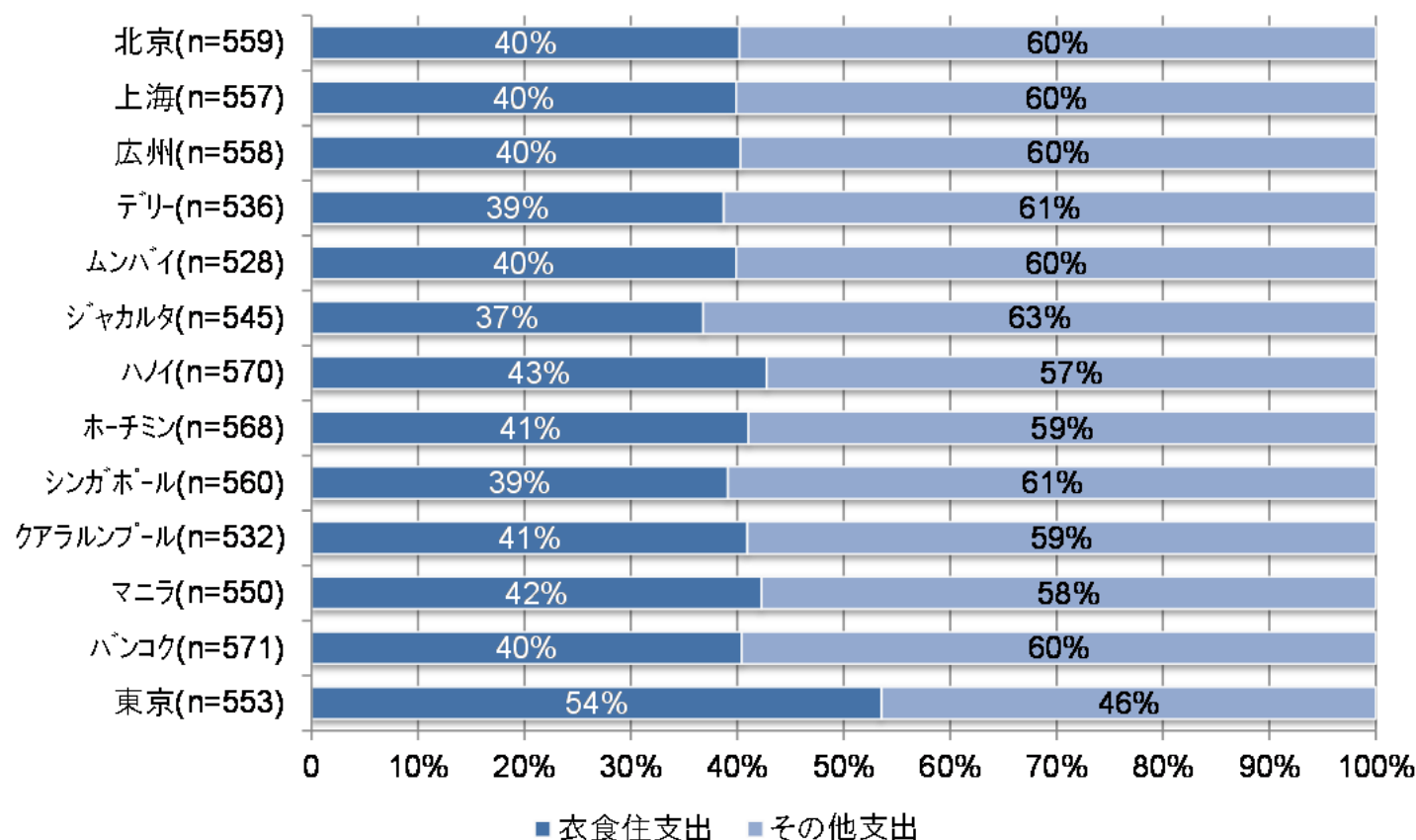
次世代の国づくり

出所：日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

世帯支出構成比(Q22) 全体

衣食住支出とその他の支出の割合は、東京を除く12都市ではおおむね4:6となっている。
 東京は住居費が高いため、衣食住支出が5割を超えている。

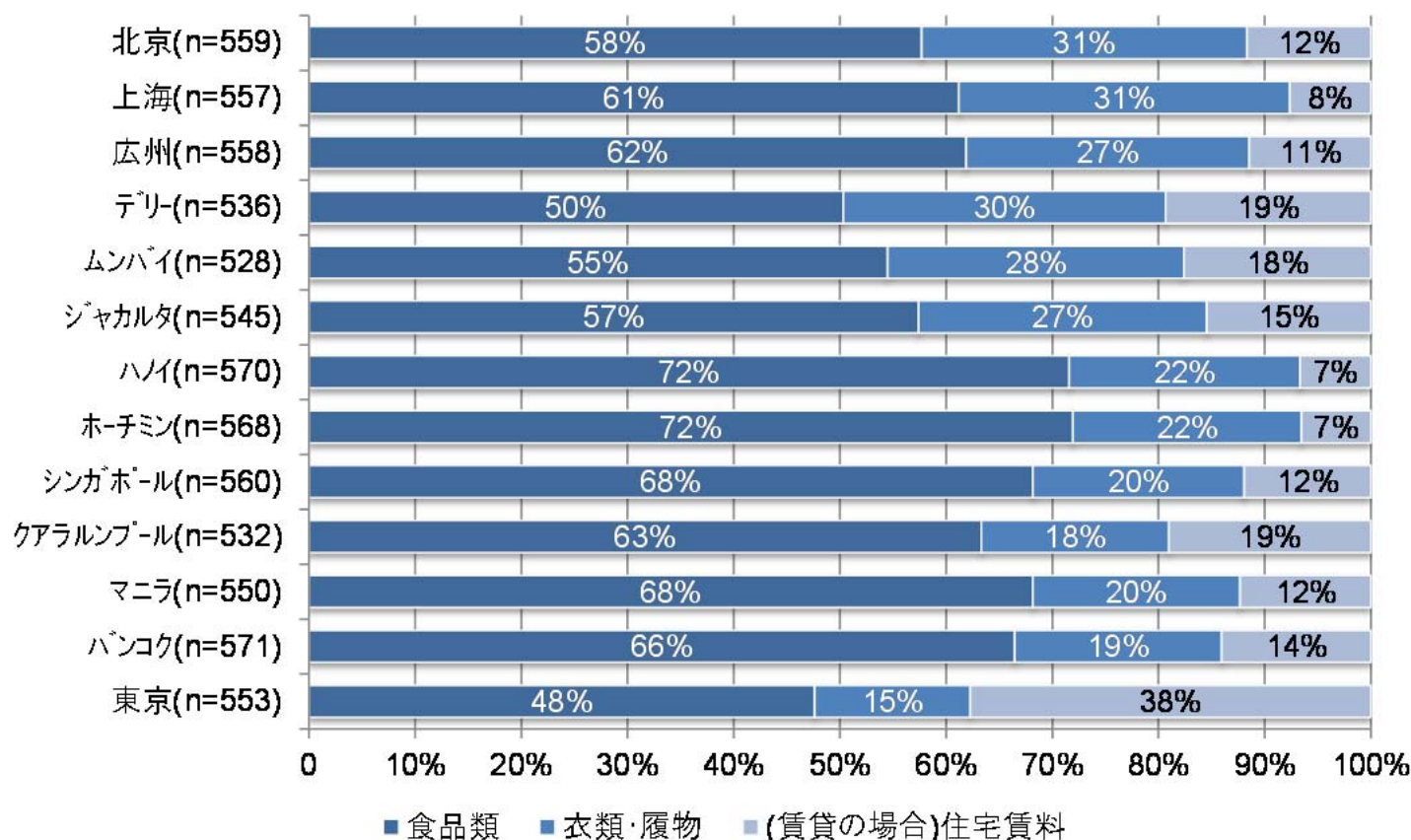
Q. あなたの世帯の1ヶ月の平均支出のうち、次の項目に対する割合はどの程度ですか。



世帯支出構成比(Q22) 衣食住支出

ベトナム2都市、シンガポール、マニラ、バンコクでは食費比率が高い(約7割)。
 中国の3都市とインドの2都市、ジャカルタで衣類・履物への支出が約3割と高くなっている。
 東京では住宅賃料比率が高く(約4割)、インド2都市とクアラルンプールでもやや高く(約2割)なっている。

Q. あなたの世帯の1ヶ月の平均支出のうち、次の項目に対する割合はどの程度ですか。

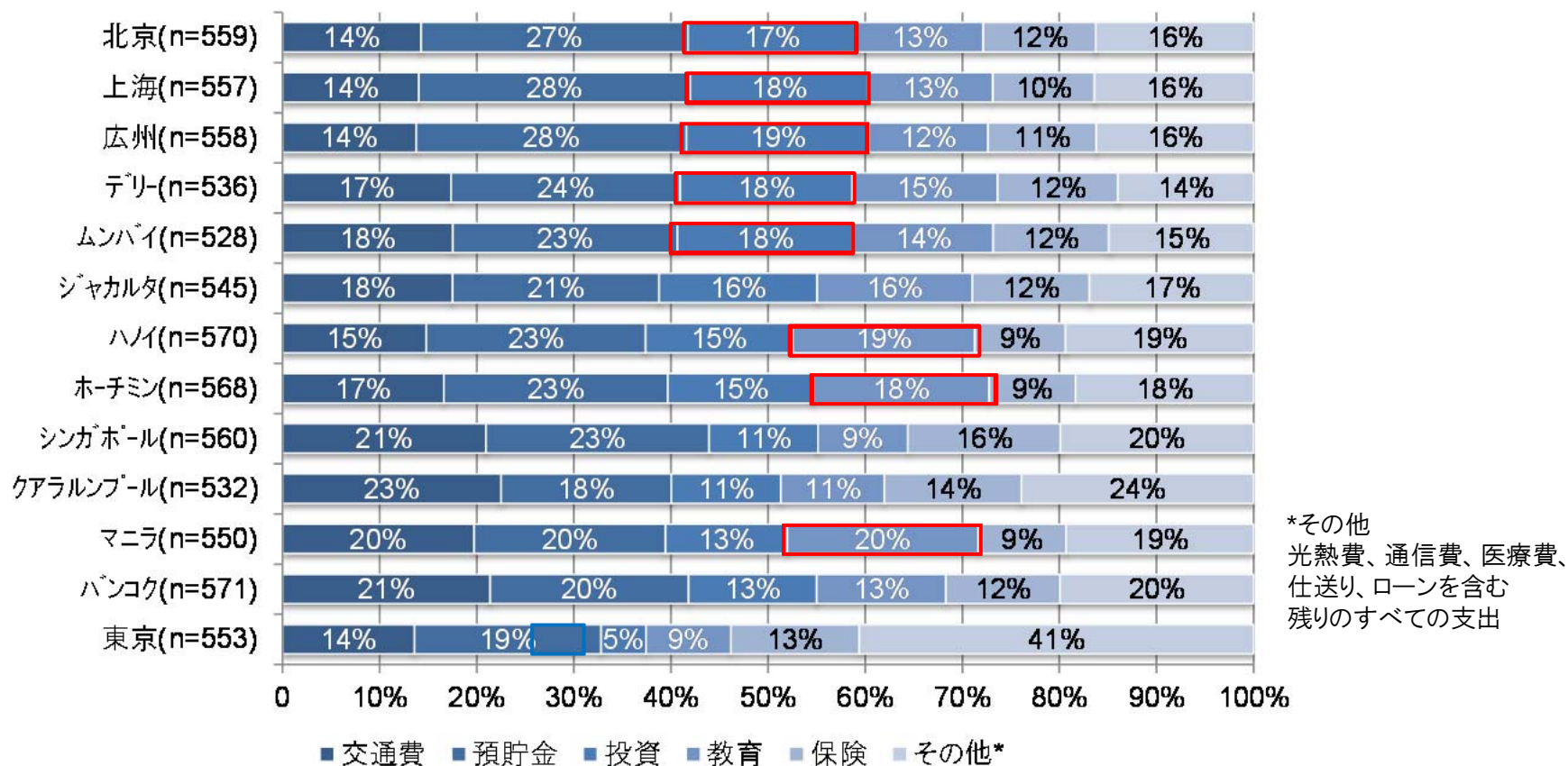


世帯支出構成比(Q22) 衣食住以外の支出

ベトナムの2都市とマニラでは、教育支出比率が高い(約2割)。

中国3都市とインド2都市では、投資支出比率が高く(約2割)、東京では非常に低い(約0.5割)。

Q. あなたの世帯の1ヶ月の平均支出のうち、次の項目に対する割合はどの程度ですか。



耐久消費財所有状況(Q23)

「三種の神器」(冷蔵・洗濯機・薄型テレビ)とエアコン、パソコン(デスクトップ型、ノート型)は、全ての都市で7割以上が所有しており、電子レンジはジャカルタを除く12都市で6割以上が所有している。自動車は、ベトナム2都市と東京、シンガポールで所有率が低くなっている。

Q.あなたの世帯に属する方(々)のどなたかが所有しているもの

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
自動車	81%	76%	72%	84%	81%	81%	41%	45%	59%	91%	67%	88%	42%
電気自動車	14%	13%	13%	15%	7%	14%	9%	10%	4%	10%	7%	11%	1%
バイク	17%	16%	25%	62%	59%	79%	87%	89%	11%	43%	44%	64%	11%
電動バイク	17%	17%	17%	17%	10%	18%	24%	28%	3%	9%	10%	12%	2%
自転車	62%	57%	47%	46%	36%	64%	60%	58%	42%	42%	54%	54%	66%
電動自転車	23%	32%	16%	17%	8%	19%	18%	20%	5%	8%	9%	10%	11%
食器洗い機	30%	35%	33%	39%	31%	34%	29%	30%	13%	19%	35%	14%	19%
冷蔵庫	91%	92%	91%	85%	84%	75%	90%	89%	85%	85%	95%	87%	91%
洗濯機	92%	91%	90%	84%	79%	76%	88%	85%	84%	83%	89%	84%	89%
エアコン	88%	92%	87%	76%	72%	71%	77%	76%	76%	72%	78%	73%	81%
ブラウン管テレビ	31%	31%	29%	41%	30%	49%	42%	42%	19%	33%	42%	35%	11%
薄型テレビ(液晶、プラズマ)	84%	87%	79%	80%	76%	75%	83%	81%	81%	74%	82%	73%	82%
電子レンジ	82%	88%	76%	74%	71%	59%	74%	68%	64%	64%	71%	70%	87%
パソコン(デスクトップ型、ノート型)	92%	94%	90%	84%	84%	79%	88%	89%	87%	89%	94%	87%	94%
上記に当てはまるものはない	1%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	1%	3%	1%	0%	1%	2%

<25% <50% <75% 75%<=

耐久消費財購入意向(Q23)

中国の3都市では、自動車とパソコンの買い替え購入意向が強い。
ベトナムの2都市とマニラでは、自動車の新規購入意向が高く、電気自動車も検討対象となっている。
東京は、新たな耐久消費財の購入に非常に消極的である。

Q.あなたの世帯に属する方(々)のどなたかが5年以内に購入を希望しているもの(買い替え含む)

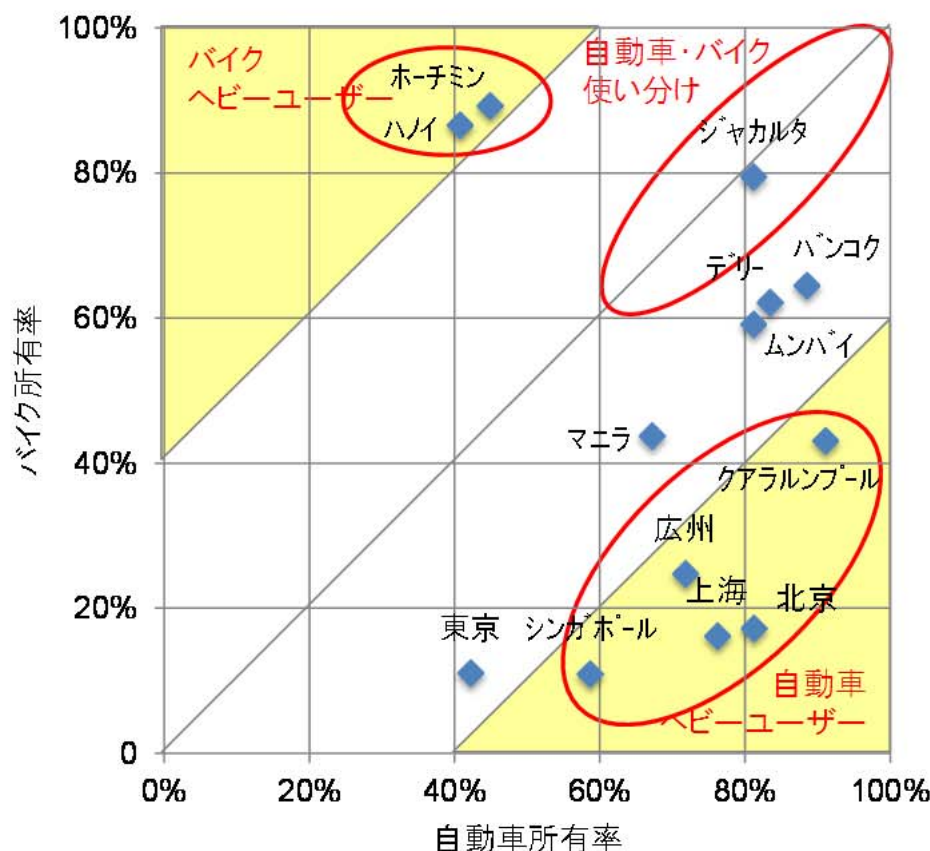
	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
自動車	52%	53%	52%	35%	39%	24%	60%	52%	29%	37%	48%	28%	18%
電気自動車	24%	27%	25%	32%	32%	42%	47%	43%	18%	37%	47%	39%	4%
バイク	14%	16%	15%	22%	21%	17%	23%	27%	18%	23%	33%	19%	4%
電動バイク	15%	15%	15%	29%	26%	39%	31%	30%	16%	30%	41%	33%	2%
自転車	14%	14%	15%	16%	17%	16%	17%	16%	16%	22%	29%	19%	13%
電動自転車	19%	17%	20%	26%	26%	37%	32%	31%	17%	30%	38%	33%	5%
食器洗い機	32%	33%	31%	28%	26%	31%	42%	42%	15%	30%	33%	32%	6%
冷蔵庫	28%	32%	31%	21%	18%	18%	16%	18%	15%	17%	15%	13%	12%
洗濯機	27%	30%	29%	17%	22%	18%	16%	19%	18%	19%	18%	13%	11%
エアコン	25%	30%	28%	29%	35%	21%	19%	23%	13%	26%	24%	17%	10%
ブラウン管テレビ	13%	14%	14%	17%	22%	22%	23%	23%	11%	22%	24%	23%	1%
薄型テレビ(液晶、プラズマ)	34%	37%	30%	27%	34%	20%	22%	23%	18%	29%	25%	21%	14%
電子レンジ	20%	22%	20%	26%	30%	23%	23%	24%	15%	21%	24%	14%	12%
パソコン(デスクトップ型、ノート型)	42%	42%	39%	26%	30%	24%	22%	21%	27%	26%	22%	20%	27%
上記に当てはまるものはない	8%	7%	6%	8%	5%	6%	4%	6%	26%	10%	9%	20%	42%

<30% <40% <50% 50%<=

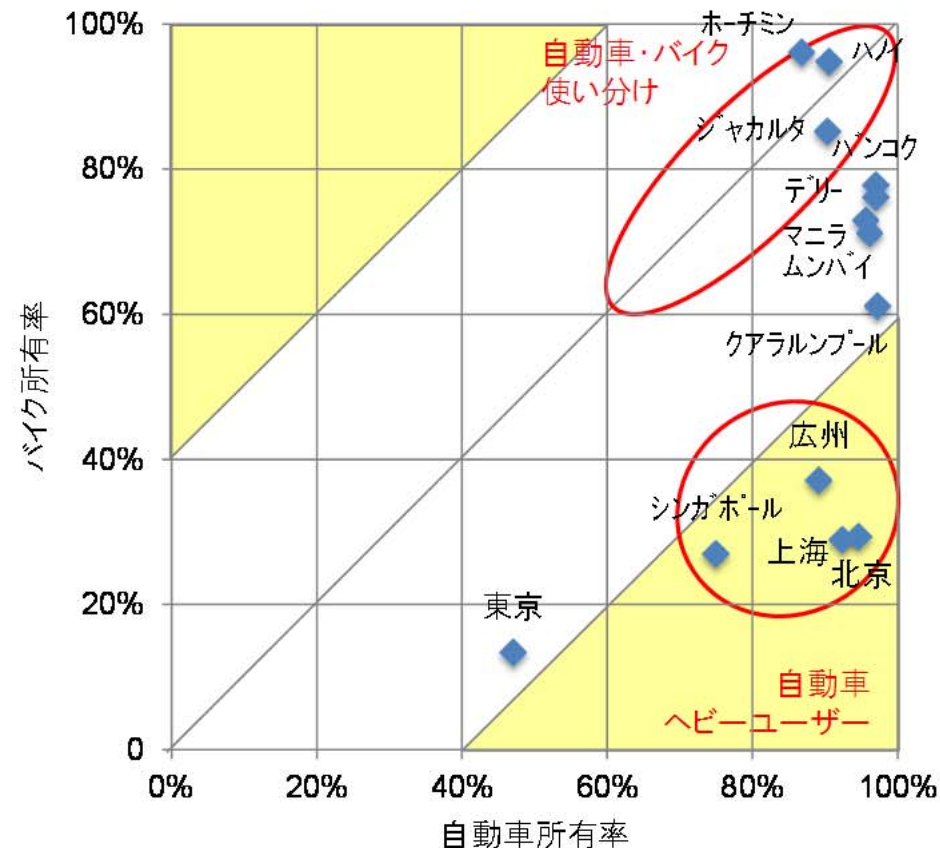
自動車・バイクの所有/購入意向

ベトナム2都市はバイク所有、中国3都市、クアラルンプール、シンガポールは自動車所有がメイン。
将来は、ベトナムの2都市では自動車の所有が進み、現在のジャカルタと同じく、
自動車とバイクを使い分けるようになると思われる。

自動車とバイクの所有率（現在）



自動車とバイクの所有率*（5年後）

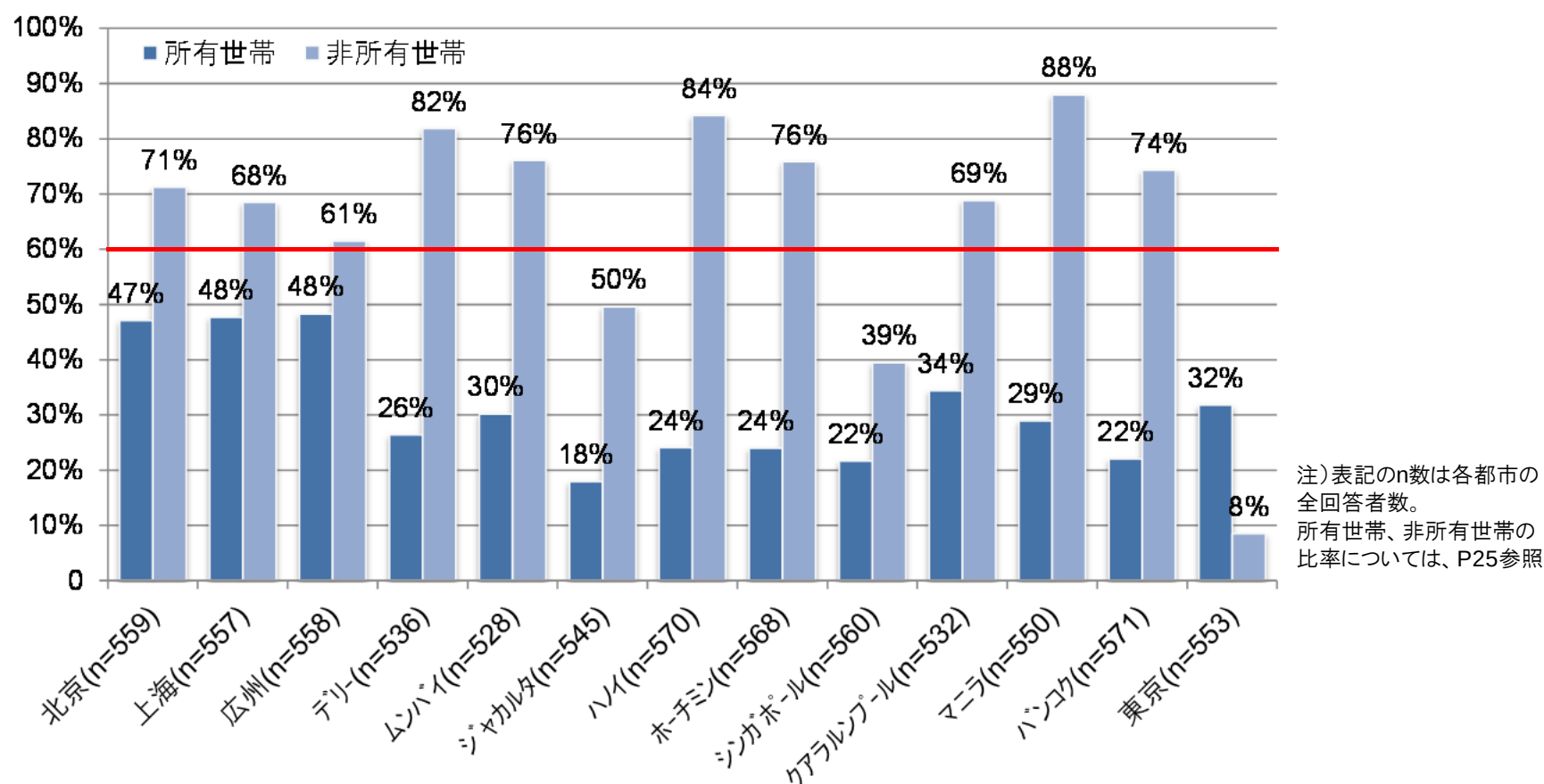


*現在所有している人が所有し続け、現在所有していない人のうち5年以内に購入意向がある人が所有していると仮定

自動車の買い替え・買い増し需要／新規需要

中国3都市は、所有世帯で約5割、非所有世帯では6割を超える高い購入意向がある。
インド2都市、ベトナム2都市、マニラ、バンコクでも、非所有世帯では7割を超える高い購入意向がある。
東京は、非所有世帯の購入意向が8%となっており、選択的に自動車を所有していないことがわかる。

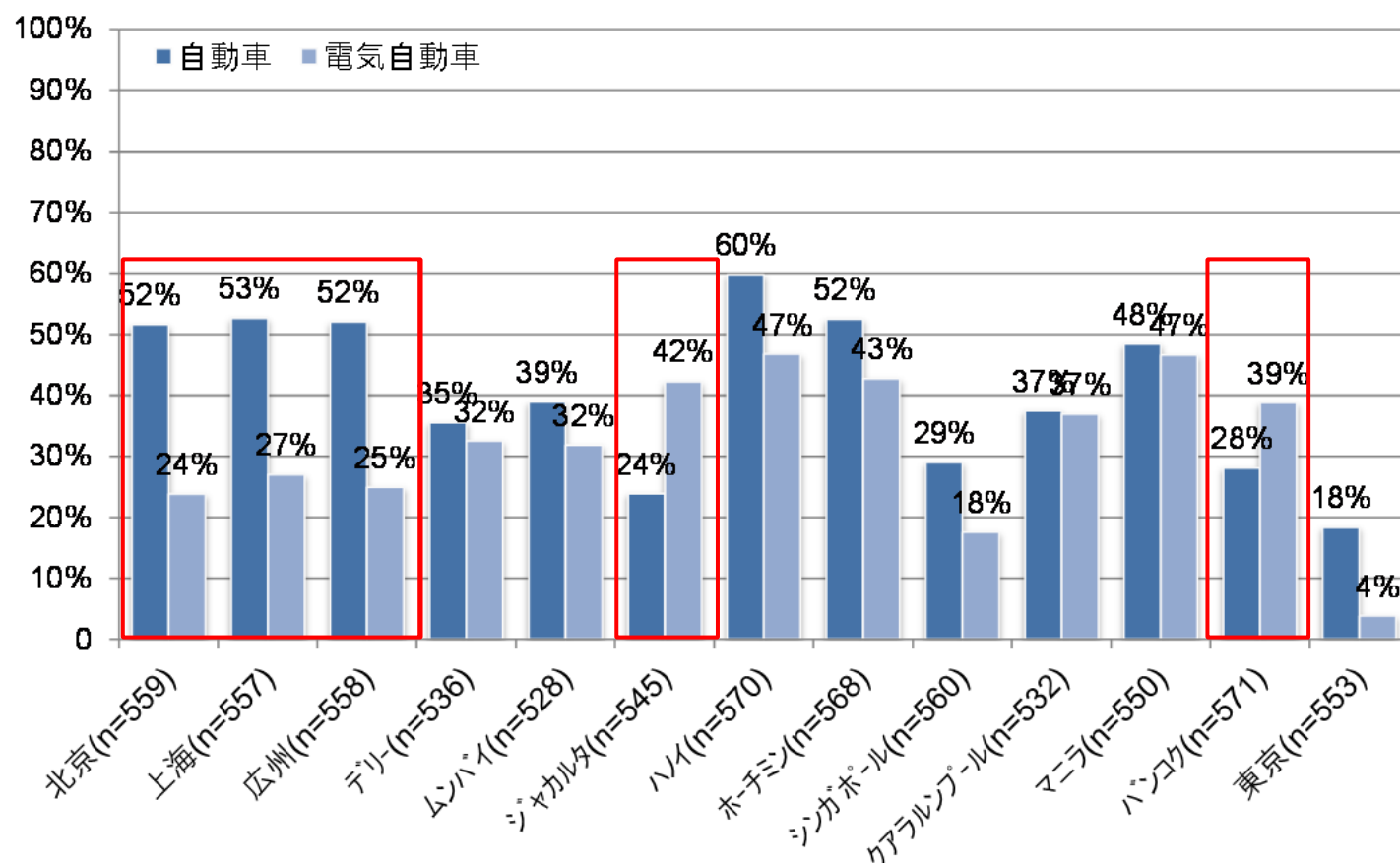
所有の有無別 自動車の5年以内購入意向率



自動車・電気自動車の購入意向

中国3都市では、電気自動車よりも自動車を希望する人が30ポイント近く多くなっている。
 ジャカルタやバンコクでは、自動車よりも電気自動車を希望する人が多く、
 インド2都市、クアラルンプール、マニラでも、電気自動車は自動車購入時の選択肢となっている。

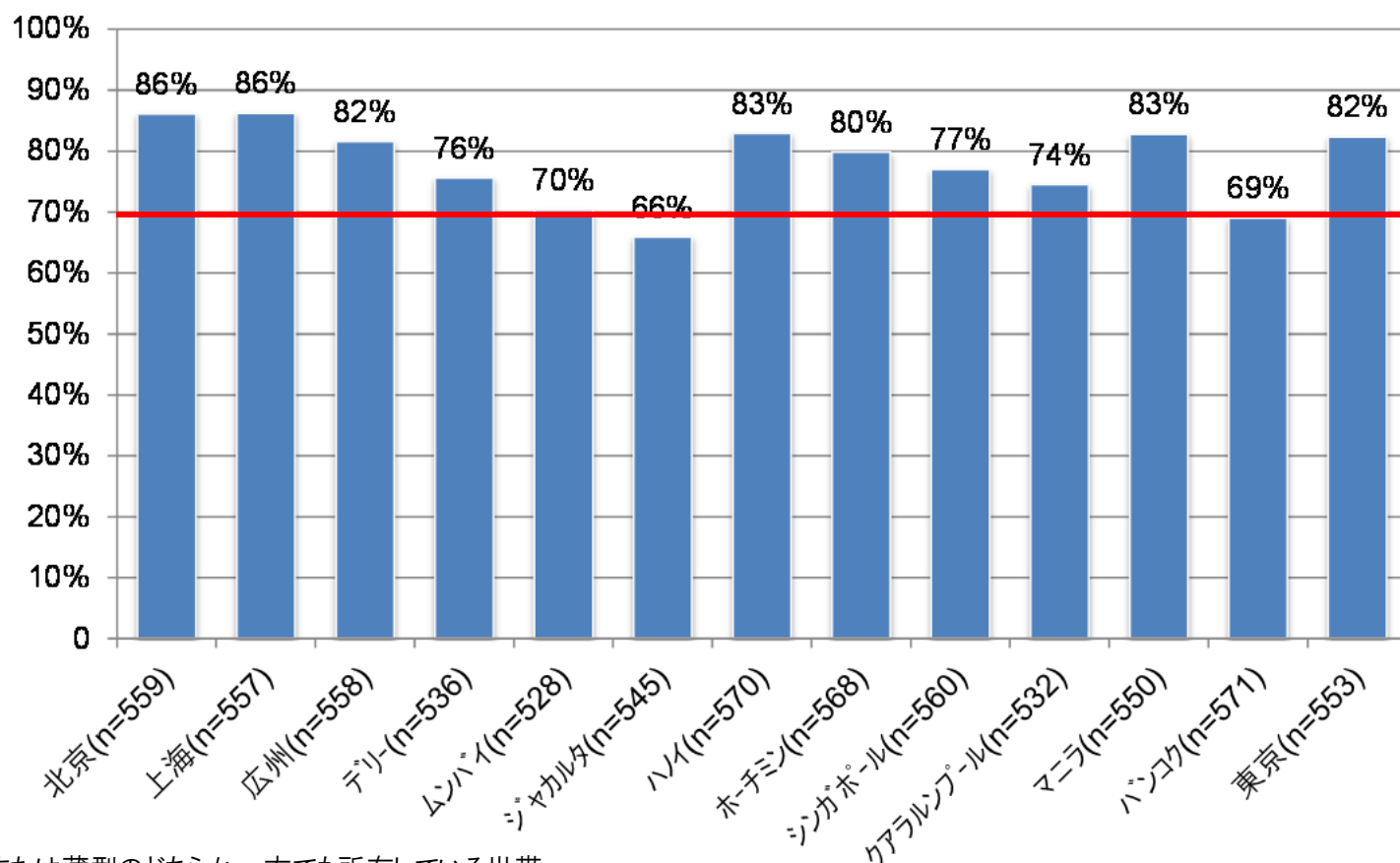
自動車・電気自動車の5年以内購入意向率



基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV*)の所有

基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV*)を全て所有している比率は、ジャカルタとバンコクを除き7割を超えている。

基本家電(冷蔵庫・洗濯機・TV*)を全て所有する世帯



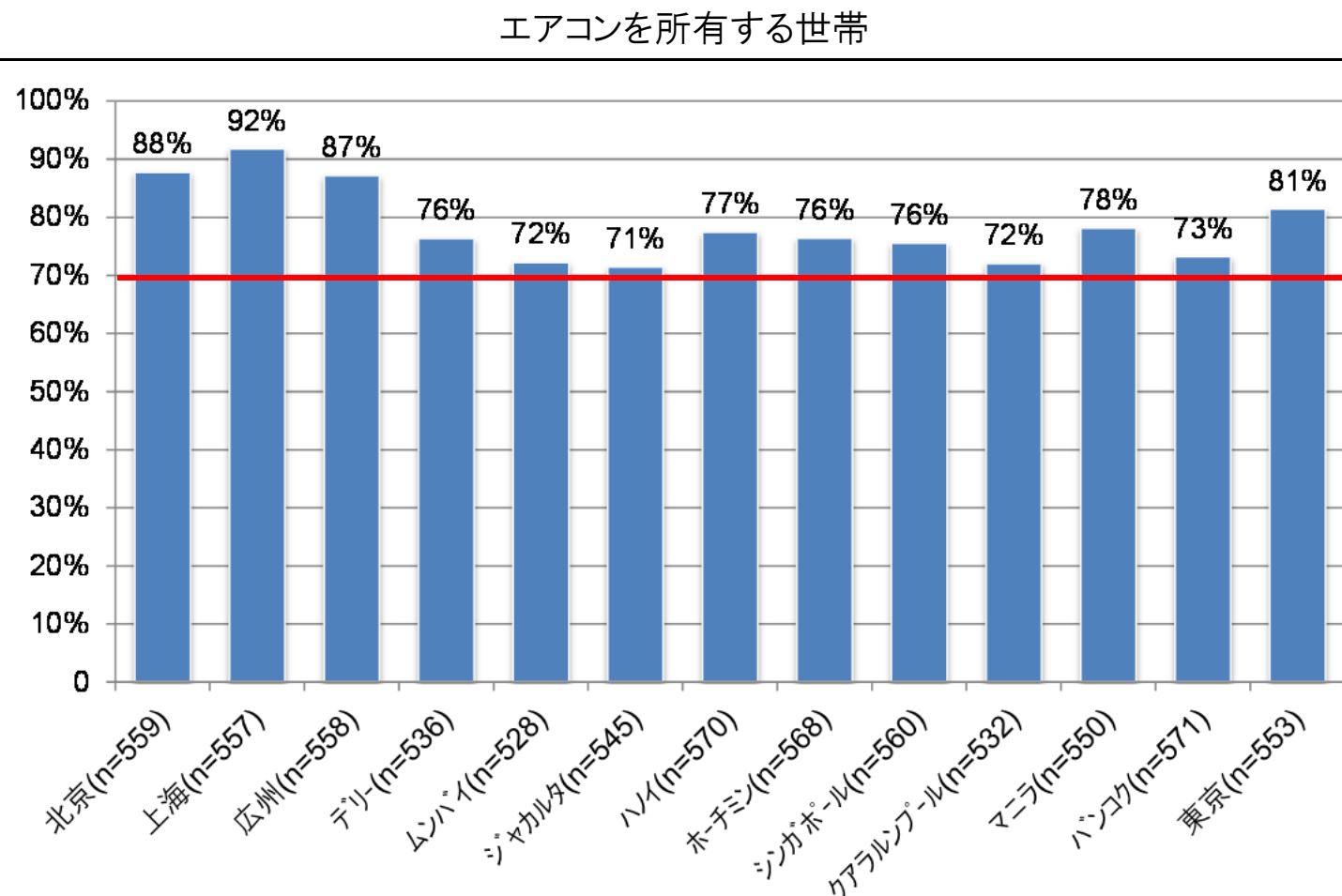
*TVは、ブラウン管または薄型のどちらか一方でも所有している世帯

次世代の国づくり

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

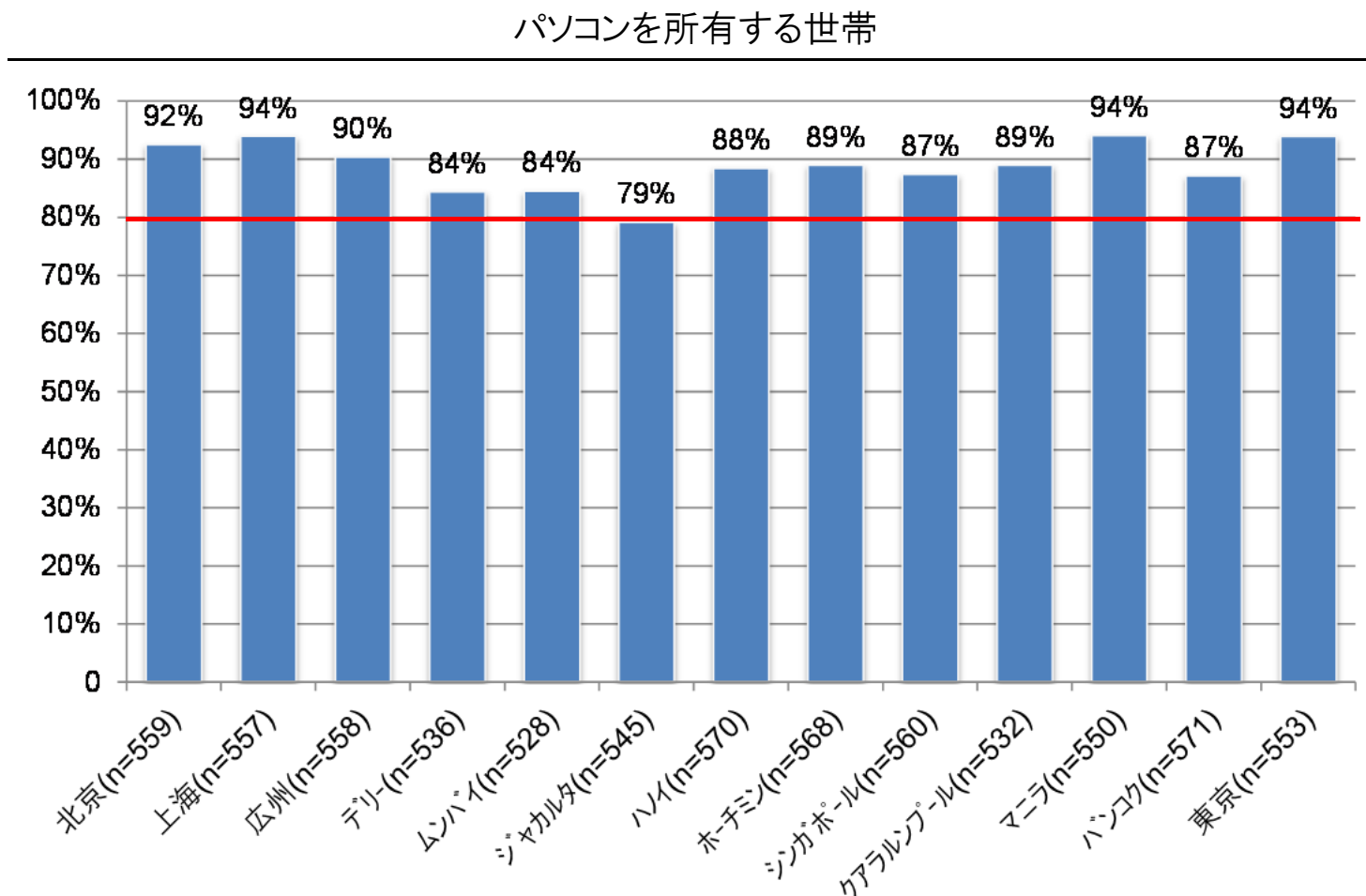
エアコンの所有

エアコンはすべての都市で所有率が7割を超えている。



パソコンの所有

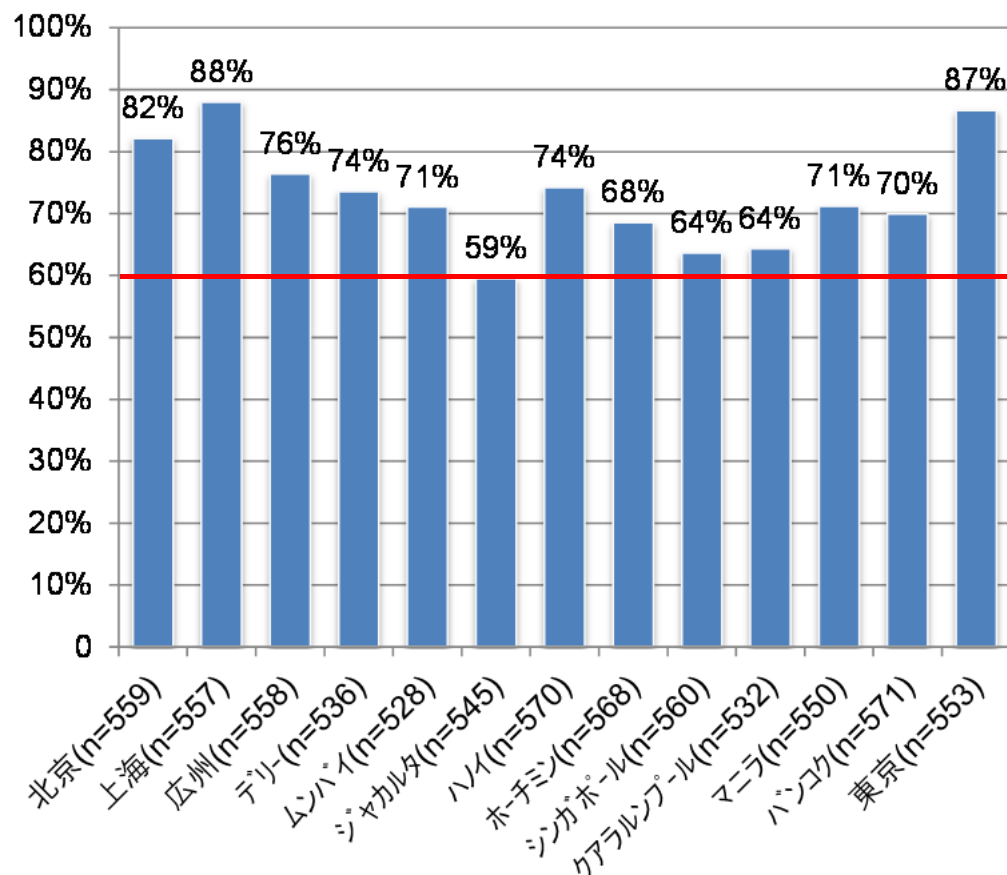
デスクトップ型、ノート型パソコンの所有率は、ジャカルタを除き8割を超えている。



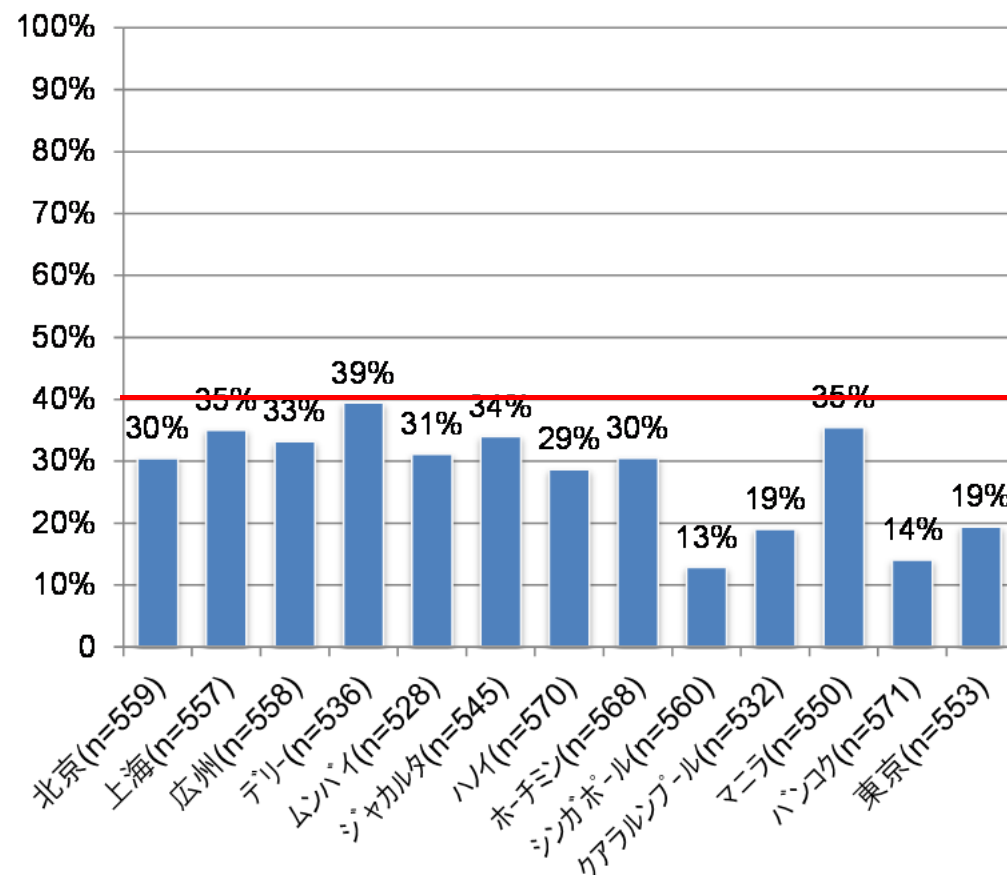
台所家電の所有

電子レンジは、ジャカルタを除くすべての都市で所有率が6割を超えている。
 一方、食器洗い機は所有率の多い都市でも4割未満であり普及が遅れている。

電子レンジを所有する世帯



食器洗い機を所有する世帯



4-2. 時間の使い方

「時間の使い方」サマリー

「仕事/勉強」にかかる時間は東京が平日・休日共に最も短く、逆にベトナム2都市は最も長い。
 各都市とも休日の「睡眠」時間が平日に比べ約10%長く、家族や友人と過ごすために多くの時間を割いている。

平日の 時間の使い方

- 「仕事/勉強」時間が最も長いのはハノイ、ホーチミン、バンコク、逆に最短はジャカルタ、東京。
- ジャカルタと東京は「睡眠」時間も短く、その分「家族との時間」や「ひとりの時間」等に多くを割いている。

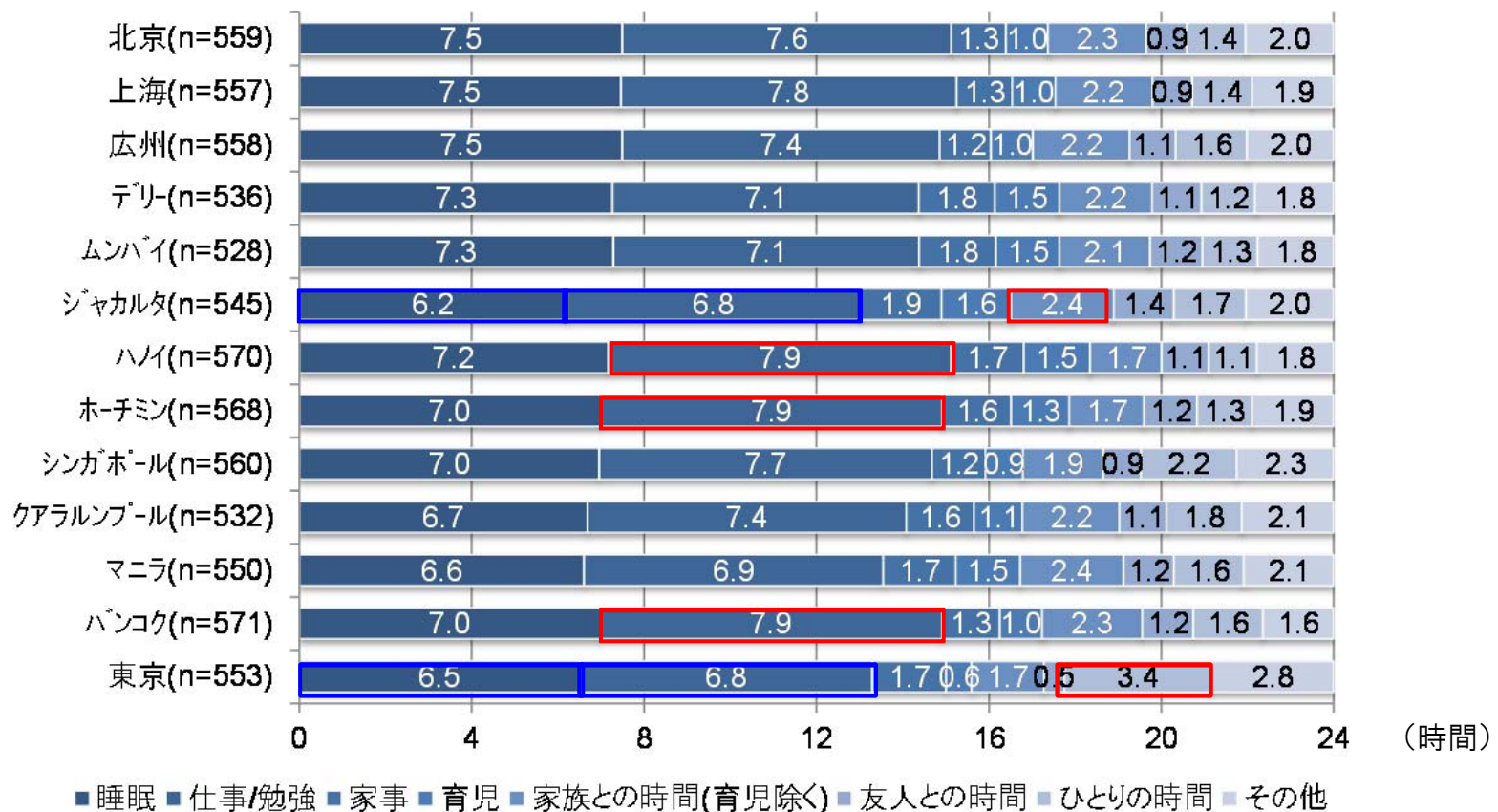
休日の 時間の使い方

- 休日でもホーチミン、ハノイは「仕事/勉強」時間が長い。逆に最も短いのは東京。
- バンコクは「家族との時間」が最も長く、逆に東京は「ひとりの時間」が最も長い。

一日の時間配分(平日)(Q24)

「仕事/勉強」時間が最も長いのはハノイ、ホーチミン、バンコク(7.9時間)、
逆に最短はジャカルタ、東京(6.8時間)。ジャカルタと東京は睡眠時間も短く(6.2/6.5時間)、
その分ジャカルタは「家族との時間」、東京では「ひとりの時間」に多くを割いている。

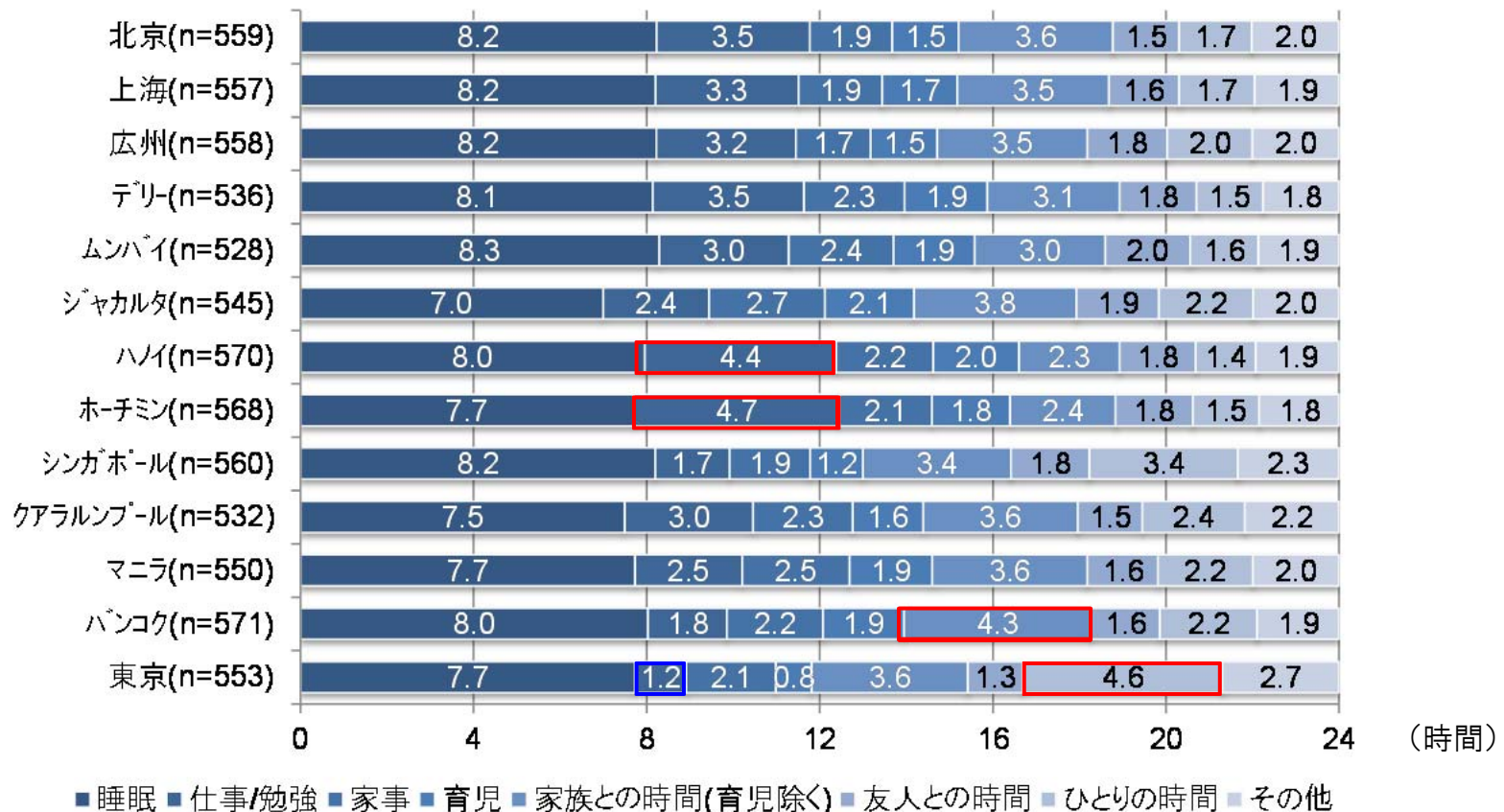
Q.あなたは次の項目について、1日あたり、どれくらいの時間を使いますか。典型的な平日についてお答えください。



一日の時間配分(休日)(Q25)

休日でもホーチミン、ハノイは「仕事/勉強」時間が長い(4.7/4.4時間)。逆に最も短いのは東京(1.2時間)。バンコクは「家族との時間」が最も長く(4.3時間)、逆に東京は「ひとりの時間」が最も長い(4.6時間)。

Q.あなたは次の項目について、1日あたり、どれくらいの時間を使いますか。典型的な休日についてお答えください。



4-3. 幸福感

「幸福感」サマリー

幸福感は都市により差が大きいが、多くの都市で世帯所得水準との相関がみられた。
幸福感判断の際に重視するのは、「健康状況」「家計状況」「家族関係」など。

幸福感の高さ

- 「とても幸せ」が最も高いのはデリー（45%）、「幸せ」まで含む割合ではジャカルタ（90%）が最も高い。
- 東京、シンガポールは「とても幸せ」比率が1割を切り、「幸せ」まで含んでも4割程度。
- 経済発展段階による絶対値の高低はあるが、多くの都市で世帯年収水準と幸福感には正の相関関係がみられる。

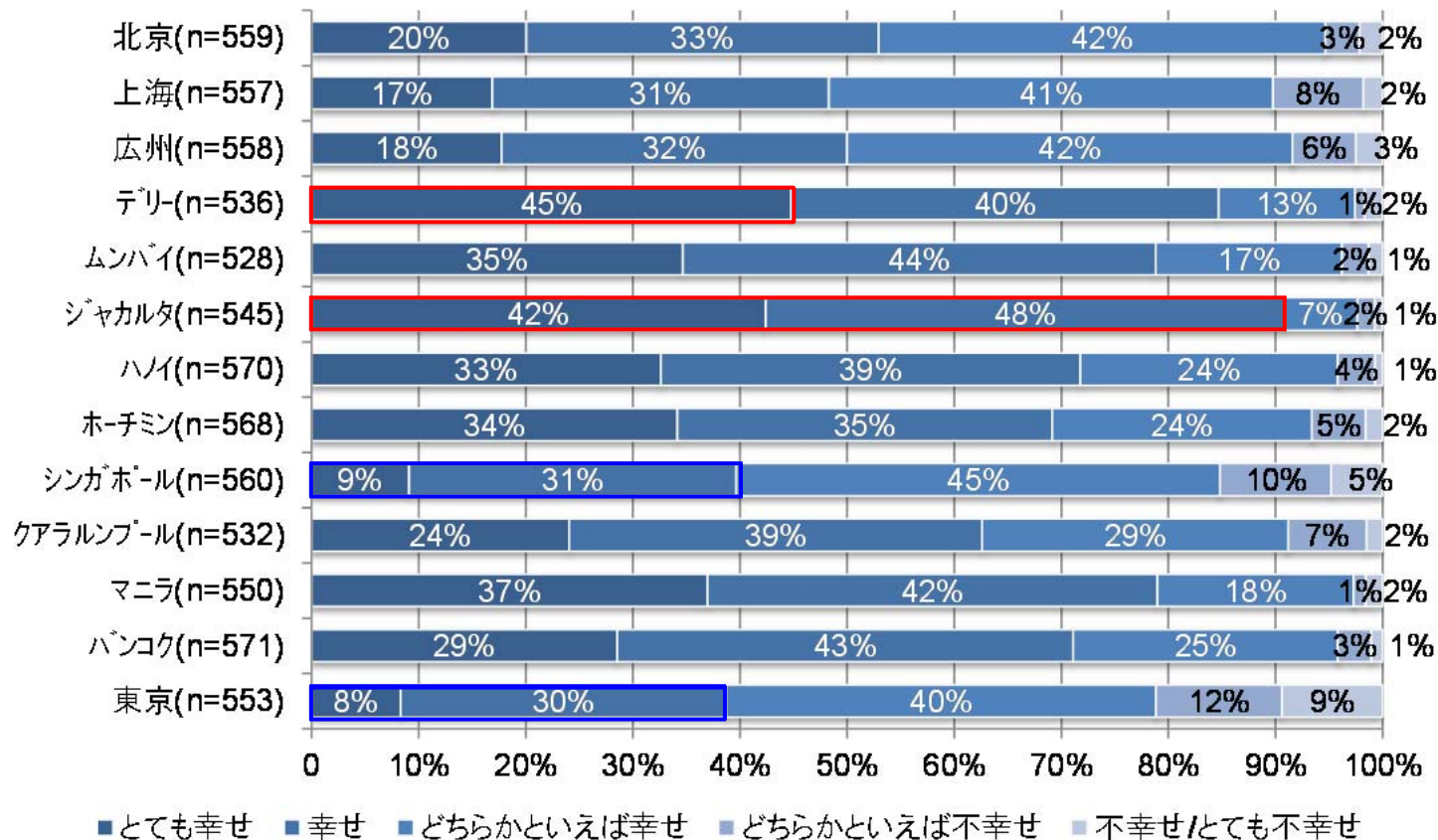
幸福感判断に対する重視項目

- 幸福感を判断する際に多くの都市で重視される項目は「健康状況」「家計状況」「家族関係」など。
- ベトナム2都市では「自由時間」、東京では「コミュニティ人間関係」の重視度が低く、時間の使い方と整合している。

幸福感(Q26)

「とても幸せ」が最も高いのはデリー(45%)、「幸せ」まで含む割合ではジャカルタ(90%)が最も高い。
東京、シンガポールは「とても幸せ」比率が1割を切り、「幸せ」まで含んでも4割程度。

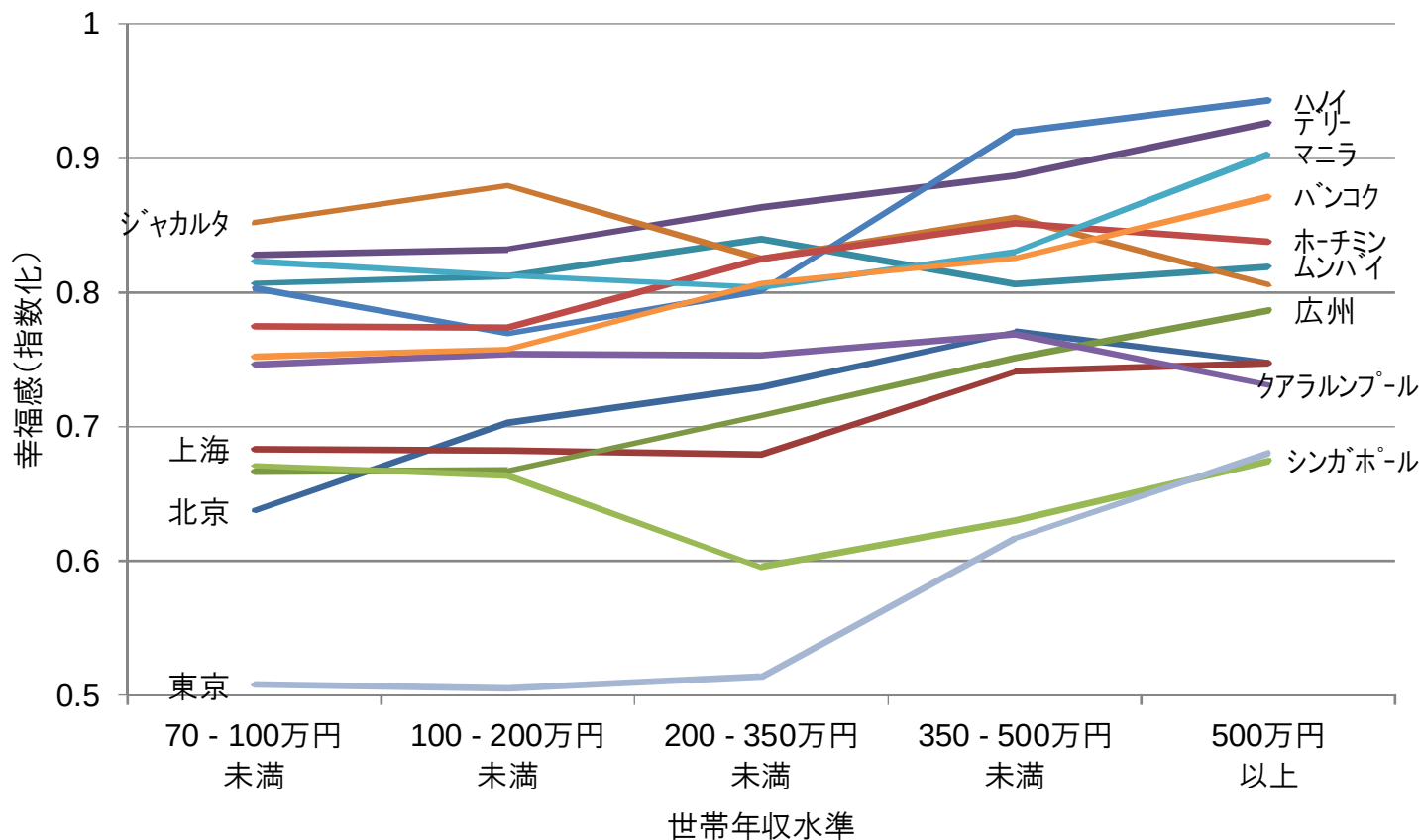
Q.現在、あなた自身はどの程度幸せですか。



幸福感と世帯年収水準との関係

経済発展段階による絶対値の高低はあるが、
多くの都市で世帯年収水準と幸福感には正の相関関係がみられる。

世帯年収水準別の幸福感(指数化)



幸福感の判断において重視する項目(Q27)

幸福感を判断する際に多くの都市で重視される項目は「健康状況」「家計状況」「家族関係」など。
ベトナム2都市では「自由時間」、東京では「コミュニティ人間関係」の重視度が低く、時間の使い方と整合。

幸福感および幸福感判断に対する個別項目の重視度(指数化)

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)	13都市 平均 (n=7,187)
幸福感	0.73	0.71	0.71	0.85	0.82	0.86	0.80	0.79	0.65	0.75	0.82	0.79	0.62	0.76
家計状況	0.87	0.86	0.87	0.91	0.91	0.86	0.87	0.86	0.84	0.89	0.92	0.88	0.77	0.87
就業状況	0.84	0.84	0.85	0.87	0.87	0.85	0.85	0.85	0.81	0.85	0.90	0.81	0.72	0.84
健康状況	0.93	0.93	0.93	0.87	0.89	0.87	0.91	0.90	0.87	0.91	0.95	0.89	0.82	0.90
自由時間	0.78	0.78	0.78	0.79	0.79	0.79	0.63	0.64	0.75	0.78	0.81	0.76	0.76	0.76
生きがい	0.80	0.80	0.80	0.84	0.83	0.85	0.80	0.82	0.76	0.79	0.89	0.78	0.73	0.81
家族関係	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.88	0.85	0.84	0.85	0.90	0.94	0.89	0.76	0.87
友人関係	0.82	0.81	0.83	0.84	0.84	0.82	0.77	0.77	0.74	0.79	0.84	0.76	0.67	0.79
職場人間関係	0.78	0.78	0.80	0.83	0.83	0.82	0.76	0.74	0.72	0.78	0.82	0.77	0.61	0.77
コミュニティ人間関係	0.70	0.71	0.73	0.81	0.79	0.80	0.70	0.68	0.62	0.73	0.75	0.72	0.48	0.71

注)重視度(指数化)は、「全く重視しない」を0点、「非常に重視する」を1点として回答を数値化し、都市ごとに平均した値。

<0.7	<0.8	<0.9	0.9<=
------	------	------	-------

4-4. 消費行動 医療

「医療」サマリー

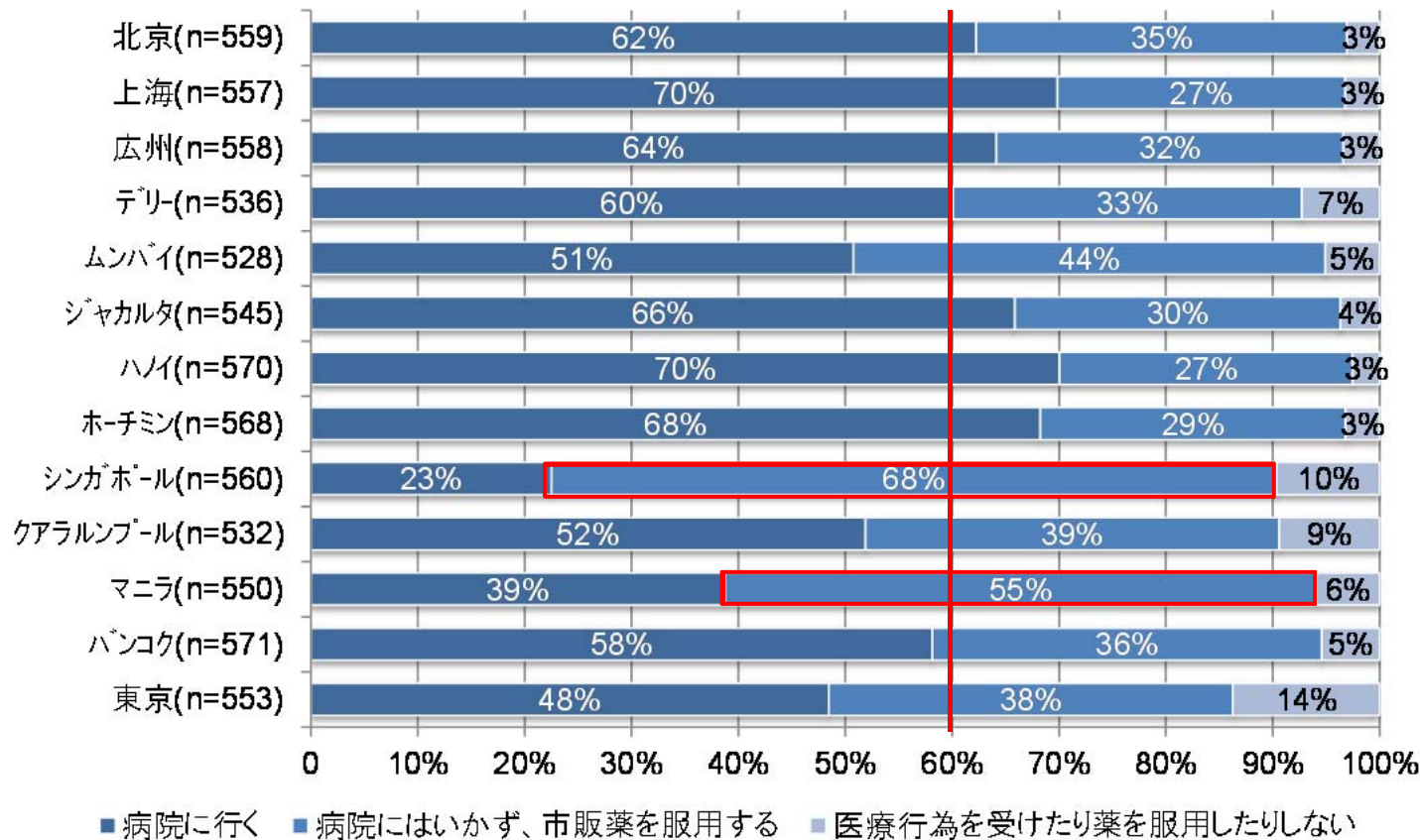
ベトナムの2都市では、体調が悪い時に病院を利用する割合が多く、事前の情報収集もしっかりしている。病院でのサービスに対する満足度はおおむね高く、待ち時間と自己負担金額以外では不満は少ない。

体調が悪いと 感じたときの対応	- 中国3都市、デリー、ジャカルタ、ベトナム2都市では、体調が悪い時に6割以上が病院を利用している。 - 一方、シンガポール、マニラ、東京では体調が悪くても病院には行かない人が多い。 - 特にシンガポールやマニラでは、5割以上の人が、病院には行かず市販薬で対応している。
病院へ行く前の 情報収集	ベトナムの2都市では、病院に行く際に事前に必ず情報収集をする人が3割以上いる一方、インド2都市やジャカルタ、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、東京では、事前に何も情報収集をしない人が3割以上いる。
医療サービス 満足度	- 自宅近隣の病院でのサービスに対する満足率はおおむね高い。 - 中国の3都市とベトナムの2都市、シンガポールと東京で待ち時間について、ベトナムの2都市、シンガポールと東京で自己負担金額について、満足率が低くなっている。

体調が悪いと感じた時の行動(Q30)

中国3都市、デリー、ジャカルタ、ベトナム2都市では、体調が悪い時に6割以上が病院を利用している。
 一方、シンガポール、マニラ、東京では体調が悪くても病院には行かない人が多い。
 特にシンガポールやマニラでは、5割以上の人々が、病院には行かず市販薬で対応している。

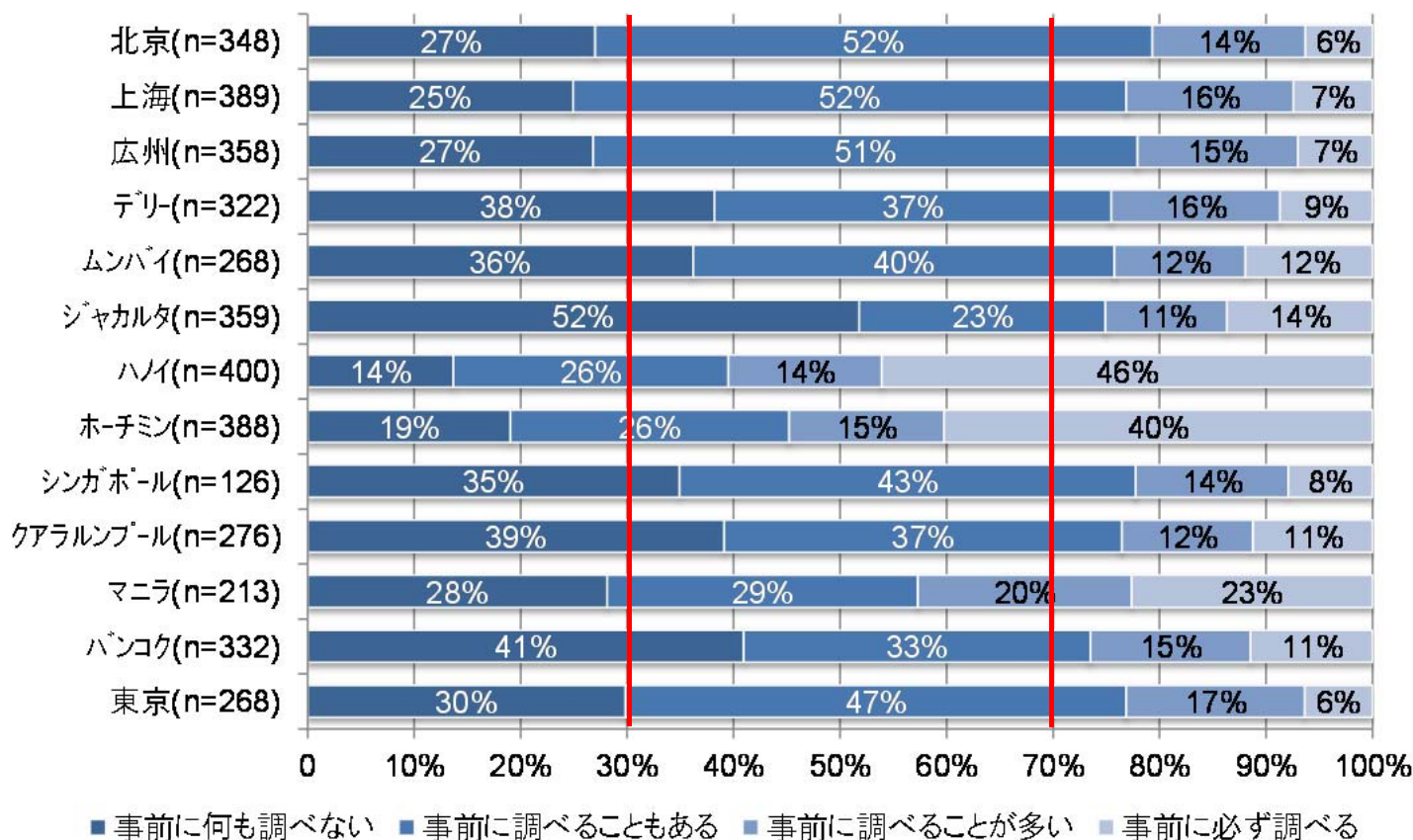
Q.体調が悪いと感じたときのあなたの行動に最も近いものをひとつだけお選びください。



病院へ行く前の情報収集(Q31)

ベトナムの2都市では、病院に行く際に事前に必ず情報収集をする人が3割以上いる一方、インド2都市やジャカルタ、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、東京では、事前に何も情報収集をしない人が3割以上いる。

Q.あなたが病院に行くことになった場合、あなた自身で事前に病院・医師の情報やご自身の症状、治療方法について情報収集をしますか。



基数はQ30で「体調が悪いときは病院に行く」を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_1) 症状

症状の情報収集源として、すべての都市で「インターネット」が最も高い。
マニラでは「医師・医療従事者」も高くなっている。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(症状)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	テリ (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	87%	86%	80%	64%	49%	60%	80%	73%	78%	75%	77%	84%	91%
新聞、雑誌、書籍	14%	18%	16%	24%	16%	15%	30%	34%	10%	22%	15%	15%	6%
知人・友人の評判	30%	33%	26%	24%	24%	27%	29%	26%	26%	29%	26%	16%	11%
親・親戚の評判	24%	25%	19%	26%	26%	26%	21%	23%	18%	30%	25%	18%	12%
医師・医療従事者	20%	22%	25%	36%	40%	31%	37%	31%	22%	26%	44%	25%	7%
その他の媒体や人	5%	6%	3%	8%	3%	18%	12%	10%	7%	14%	4%	13%	3%
何も調べない	2%	2%	2%	2%	4%	3%	1%	3%	2%	2%	0%	2%	5%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_2) 治療方法の種類

治療方法の情報収集源として、ムンバイを除くすべての都市で「インターネット」が最も高い。
ムンバイでは「医師・医療従事者」が最も高く、ハノイでも高くなっている。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(治療方法の種類)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	テリ (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	69%	64%	55%	43%	40%	46%	56%	51%	66%	63%	64%	72%	72%
新聞、雑誌、書籍	24%	32%	28%	28%	15%	20%	26%	32%	16%	25%	17%	15%	6%
知人・友人の評判	20%	28%	23%	26%	26%	28%	29%	27%	18%	26%	24%	13%	6%
親・親戚の評判	21%	24%	18%	24%	20%	26%	21%	19%	18%	29%	24%	12%	5%
医師・医療従事者	24%	29%	30%	43%	44%	39%	51%	45%	27%	33%	46%	22%	7%
その他の媒体や人	6%	10%	7%	6%	8%	13%	8%	11%	12%	13%	7%	11%	2%
何も調べない	4%	5%	2%	2%	8%	3%	1%	2%	5%	5%	2%	3%	22%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_3) 薬剤の種類

薬剤の種類の情報収集源として、インド2都市、ベトナム2都市、ジャカルタを除く都市で「インターネット」が最も高い。インド2都市、ベトナム2都市、ジャカルタでは、「医師・医療従事者」が最も高く、マニラでも高い。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(薬剤の種類)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	デリー (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	66%	59%	52%	35%	35%	39%	45%	41%	55%	47%	62%	60%	56%
新聞、雑誌、書籍	17%	18%	17%	17%	15%	14%	19%	18%	10%	18%	14%	10%	2%
知人・友人の評判	26%	33%	31%	27%	22%	32%	25%	20%	17%	14%	15%	14%	5%
親・親戚の評判	22%	24%	15%	23%	16%	24%	19%	19%	13%	15%	20%	13%	3%
医師・医療従事者	26%	24%	31%	42%	50%	43%	56%	49%	28%	29%	51%	34%	8%
その他の媒体や人	8%	10%	6%	9%	4%	12%	9%	8%	5%	7%	4%	8%	1%
何も調べない	9%	10%	5%	7%	9%	6%	2%	6%	15%	18%	4%	5%	38%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_4) 病院・医師に対する口コミ

病院・医師に対する口コミの情報収集源として、中国3都市、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、東京では、「インターネット」が最も高い。その他の都市では、「知人・友人の評判」や「親・親戚の評判」が最も高い。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(病院・医師に対する口コミ)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	テリ (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	64%	60%	47%	34%	29%	26%	32%	28%	51%	46%	42%	52%	73%
新聞、雑誌、書籍	17%	16%	11%	23%	12%	8%	13%	16%	18%	14%	9%	13%	1%
知人・友人の評判	38%	43%	41%	44%	36%	50%	47%	40%	44%	42%	39%	25%	17%
親・親戚の評判	31%	38%	40%	42%	50%	50%	32%	31%	38%	40%	44%	24%	11%
医師・医療従事者	16%	27%	21%	37%	32%	23%	21%	20%	22%	25%	31%	22%	3%
その他の媒体や人	9%	13%	8%	16%	15%	24%	13%	13%	12%	14%	8%	11%	1%
何も調べない	6%	5%	4%	4%	3%	5%	8%	9%	10%	9%	5%	6%	20%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_5) 病院での特定診療科/専門医の所在

病院での特定診療科/専門医の所在の情報収集源として、インド2都市とベトナム2都市を除くすべての都市で「インターネット」が最も高い。インド2都市とベトナム2都市では「医師・医療従事者」が最も高い。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(病院での特定診療科/専門医の所在)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	テリ (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	63%	63%	50%	36%	35%	39%	37%	33%	63%	52%	50%	59%	76%
新聞、雑誌、書籍	13%	15%	14%	22%	18%	11%	13%	20%	16%	17%	10%	11%	2%
知人・友人の評判	33%	37%	33%	36%	32%	38%	31%	32%	21%	30%	32%	19%	5%
親・親戚の評判	23%	24%	23%	29%	30%	35%	23%	25%	22%	31%	30%	17%	6%
医師・医療従事者	24%	33%	40%	41%	43%	35%	39%	36%	32%	34%	41%	29%	4%
その他の媒体や人	7%	12%	8%	14%	12%	18%	13%	14%	10%	16%	9%	13%	1%
何も調べない	6%	5%	6%	4%	4%	3%	9%	11%	9%	8%	2%	6%	22%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

病院へ行く前の情報収集源(Q32_6) 治療にかかる費用

治療にかかる費用の情報収集源として、インド2都市とジャカルタを除くすべての都市で「インターネット」が最も高い。インド2都市では「医師・医療従事者」、ジャカルタでは「知人・友人の評判」が最も高い。

Q.あなたは病院に行く前の事前情報を何から収集しますか。(治療にかかる費用)

	北京 (n=254)	上海 (n=292)	広州 (n=262)	デリー (n=199)	ムンバイ (n=171)	ジャカルタ (n=173)	ハノイ (n=345)	ホーチミン (n=314)	シンガ ポール (n=82)	クアラ Lumpur (n=168)	マニラ (n=153)	バンコク (n=196)	東京 (n=188)
インターネット	52%	49%	39%	32%	36%	36%	52%	44%	63%	48%	55%	58%	49%
新聞、雑誌、書籍	10%	12%	12%	17%	13%	7%	13%	18%	13%	11%	12%	13%	2%
知人・友人の評判	24%	28%	24%	32%	27%	39%	28%	29%	29%	35%	31%	17%	6%
親・親戚の評判	19%	22%	19%	28%	33%	33%	24%	20%	22%	34%	37%	14%	7%
医師・医療従事者	16%	28%	28%	39%	40%	27%	41%	40%	23%	30%	41%	23%	5%
その他の媒体や人	7%	12%	11%	12%	9%	27%	14%	15%	7%	14%	7%	11%	1%
何も調べない	19%	15%	14%	5%	7%	8%	4%	7%	7%	9%	4%	10%	44%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ31で「事前に何も調べずに病院に行く」以外を選択した人数

医療サービス満足度(Q33)

自宅近隣の病院でのサービスに対する満足率はおおむね高い。
 中国の3都市とベトナムの2都市、シンガポールと東京で待ち時間について、
 ベトナムの2都市、シンガポールと東京で自己負担金額について、満足率が低くなっている。

Q.ご自宅近隣の病院やそれらで受ける医療サービスに関して、どのように感じていますか。(満足率*)

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	テリ (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
自宅から近隣の病院までの距離	84%	84%	87%	94%	94%	92%	85%	83%	75%	86%	92%	91%	82%
自宅近隣での病院の数	71%	74%	80%	86%	89%	87%	75%	73%	70%	77%	83%	83%	76%
自宅近隣での専門病院/診療科の数	58%	62%	67%	78%	81%	83%	69%	66%	65%	70%	81%	75%	66%
医師・医療従事者の対応(診察態度)	62%	68%	68%	85%	88%	85%	56%	59%	71%	79%	87%	81%	73%
待ち時間	38%	41%	41%	75%	74%	72%	32%	35%	35%	51%	63%	60%	44%
自己負担金額	50%	53%	50%	72%	73%	77%	39%	47%	39%	55%	58%	74%	45%

*非常に満足している、満足していると答えた比率

<50%	<75%	75%<=
------	------	-------

4-5. 消費行動 健康

「健康」サマリー

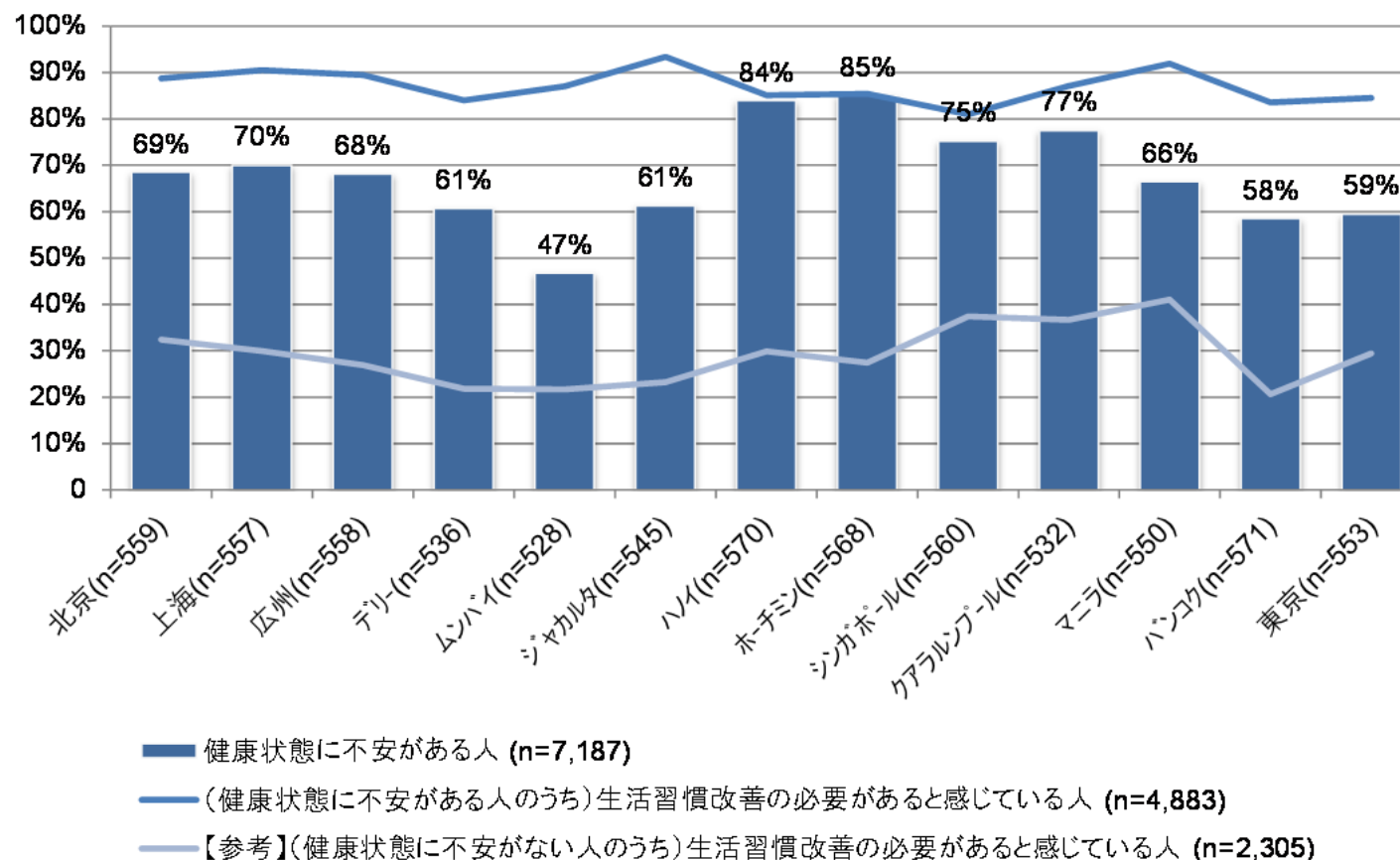
健康不安の程度は都市によって異なるが、不安を抱える人は総じて生活習慣改善の必要性を感じている。食事に関わる取り組みでは、東京を除くすべての都市で現在の実行率、新規実行意向とも高くなっている。健康商品に関わる取り組みは、ベトナム2都市では現在の実行率が低いものの、新規実行意向は高い。

健康不安と生活習慣改善意識	自身の健康状態に対する意識には、都市によって差があるものの、健康に不安を感じている人は、どの都市においても9割前後が生活習慣改善の必要性を感じている。						
生活習慣改善に影響を与える主体	- すべての都市で、6割以上が家族から影響を受けるとしている。 - 中国3都市では医療従事者、インド2都市では友達/同僚からも強く影響を受ける。						
健康のための取り組み実行率	- 食事に関わる健康のための取り組みの実行率は、東京を除く都市で6割を超えており、総じて高いといえる。 - 一方、運動や健康商品の利用、節煙・節酒に関わる取り組みの実行率は都市によってばらつきがある。 <table border="0"> <tr> <td>＜運 動＞ 高実行率：広州、デリー、ジャカルタ</td><td>低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール</td></tr> <tr> <td>＜節煙 / 節酒＞ 高実行率：中国3都市</td><td>低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール</td></tr> <tr> <td>＜健康商品＞ 高実行率：インド2都市、ジャカルタ</td><td>低実行率：シンガポール、東京、ハノイ</td></tr> </table>	＜運 動＞ 高実行率：広州、デリー、ジャカルタ	低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール	＜節煙 / 節酒＞ 高実行率：中国3都市	低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール	＜健康商品＞ 高実行率：インド2都市、ジャカルタ	低実行率：シンガポール、東京、ハノイ
＜運 動＞ 高実行率：広州、デリー、ジャカルタ	低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール						
＜節煙 / 節酒＞ 高実行率：中国3都市	低実行率：シンガポール、東京、クアラルンプール						
＜健康商品＞ 高実行率：インド2都市、ジャカルタ	低実行率：シンガポール、東京、ハノイ						
健康のための取り組み実行意向	- 現在実行していない取り組みを今後新たに実行する意向は、食事関連や運動関連で高くなっている。 - また、健康商品の利用も、健康食品や健康器具・マッサージ機器の利用で高くなっている。						

健康状態と生活習慣改善の必要性に対する意識

自身の健康状態に対する意識には、都市によって差があるものの、健康に不安を感じている人は、どの都市においても9割前後が生活習慣改善の必要性を感じている。

健康意識と生活習慣改善の必要性



注)表記のn数は各都市の全回答者数で、「健康状態に不安がある人」の基数。「生活習慣改善の必要があると感じている人」の基数は、それぞれ以下。

健康状態に不安がある人:
「Q35.将来的に生活習慣病を発症することに不安を感じていますか」の質問に「感じている」、「非常に感じている」、「既に発症している」と回答した人の合計

健康状態に不安がない人:同質問に「全く感じていない」、「感じていない」と回答した人の合計

生活習慣改善の決断に対する影響者(Q37)

すべての都市で、6割以上が家族から影響を受けている。

中国3都市では医療従事者、インド2都市では友達/同僚からも強く影響を受ける。

Q.あなたが生活習慣を改善しようと決断する場合、その決断に強く影響を及ぼすのは誰ですか。

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
医療従事者	54%	59%	56%	42%	33%	42%	34%	32%	14%	28%	36%	34%	48%
家族	77%	73%	74%	82%	83%	90%	73%	71%	81%	86%	90%	85%	64%
友達/同僚	38%	43%	41%	51%	57%	26%	44%	46%	43%	46%	45%	33%	25%
政府キャンペーン	14%	16%	15%	16%	12%	7%	14%	14%	14%	14%	12%	9%	3%
有名・著名人	9%	9%	10%	9%	7%	4%	7%	9%	3%	6%	6%	4%	3%
その他	2%	2%	1%	1%	2%	2%	3%	4%	7%	5%	5%	3%	4%

<30%
<40%
<50%
50%<=

健康のための取り組み実行状況(Q38)

食事に関わる健康のための取り組みの実行率は、東京を除く都市で6割を超えており、総じて高いといえる。一方、運動や健康商品の利用、節煙・節酒に関わる取り組みの実行率は都市によってばらつきがある。

Q.あなたが行っている健康のための取り組みについて、あてはまるものをお選びください。(現在取り組んでいること)

		北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	デリー (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホーチミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ Lumpur (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)
運動	なるべく歩いたり階段を使う	82%	82%	82%	89%	85%	92%	86%	86%	77%	86%	91%	94%	67%
	スポーツをする	76%	75%	82%	74%	70%	88%	72%	71%	51%	62%	56%	71%	36%
	自宅でストレッチやヨガなどをする	61%	63%	65%	71%	68%	71%	54%	53%	38%	50%	54%	54%	41%
	スポーツジム、フィットネスジムに行く	53%	58%	59%	63%	62%	64%	44%	44%	31%	38%	46%	56%	21%
健康 商品	サプリメントを摂る	46%	52%	49%	59%	60%	73%	47%	49%	52%	53%	60%	58%	42%
	健康食品を摂る	52%	55%	56%	74%	75%	88%	45%	46%	50%	67%	81%	72%	28%
	自宅で健康器具やマッサージ機器を使う	52%	55%	52%	64%	59%	62%	43%	46%	36%	41%	46%	48%	23%
節煙 節酒	お酒を控える	70%	68%	65%	61%	54%	43%	60%	58%	36%	43%	55%	57%	46%
	タバコを控える	65%	64%	59%	60%	51%	45%	57%	53%	31%	37%	48%	52%	46%
食事	食事の量に注意する	79%	80%	80%	80%	78%	81%	74%	74%	65%	76%	79%	73%	54%
	栄養のバランスに気をつける	81%	83%	82%	78%	78%	81%	76%	75%	64%	74%	76%	74%	55%
	カロリーを控える	74%	77%	75%	73%	71%	77%	61%	62%	61%	71%	70%	70%	53%
	塩分を控える	79%	79%	75%	74%	70%	76%	61%	64%	62%	73%	69%	69%	48%
	油モノをとり過ぎないようにする	79%	79%	78%	80%	76%	81%	72%	71%	66%	75%	72%	72%	50%
	糖分を控える	73%	77%	77%	76%	70%	83%	66%	66%	65%	77%	72%	71%	45%

<50% <65% <80% 80%<=

健康のための取り組み新規実行意向(Q38)

現在実行していない取り組みを今後新たに実行する意向は、食事関連や運動関連で高くなっている。
また、健康商品の利用も、健康食品や健康器具・マッサージ機器の利用で高くなっている。

Q.あなたが行っている健康のための取り組みについて、あてはまるものをお選びください。(今後の新規実行意向*)

		北京	上海	広州	テリ-	ムンバイ	ジャカルタ	ハノイ	ホーチミン	シンガポール	クアラルンプール	マニラ	バンコク	東京
運動	なるべく歩いたり階段を使う	79%	87%	83%	89%	88%	95%	77%	79%	74%	82%	77%	94%	74%
	スポーツをする	91%	90%	93%	82%	76%	100%	87%	88%	78%	85%	89%	92%	68%
	自宅でストレッチやヨガなどをする	82%	82%	83%	81%	78%	76%	81%	83%	68%	74%	87%	81%	69%
	スポーツジム、フィットネスジムに行く	71%	71%	71%	81%	73%	67%	68%	63%	47%	61%	81%	76%	44%
健康商品	サプリメントを摂る	51%	47%	58%	48%	44%	64%	59%	53%	44%	54%	56%	55%	31%
	健康食品を摂る	58%	58%	63%	72%	72%	87%	65%	58%	55%	71%	76%	86%	38%
	自宅で健康器具やマッサージ機器を使う	67%	70%	72%	61%	56%	64%	70%	71%	47%	58%	75%	61%	34%
節煙 節酒	お酒を控える	41%	45%	44%	34%	27%	23%	38%	43%	18%	16%	28%	32%	40%
	タバコを控える	35%	37%	39%	38%	29%	28%	33%	36%	15%	19%	29%	22%	30%
食事	食事の量に注意する	86%	88%	87%	81%	80%	89%	70%	74%	72%	82%	90%	82%	72%
	栄養のバランスに気をつける	92%	95%	90%	85%	81%	92%	79%	80%	77%	88%	88%	89%	80%
	カロリーを控える	83%	87%	77%	85%	80%	92%	63%	67%	72%	80%	82%	85%	74%
	塩分を控える	85%	86%	86%	77%	70%	91%	65%	70%	74%	81%	84%	80%	70%
	油モノをとり過ぎないようにする	86%	89%	92%	83%	79%	90%	65%	76%	80%	81%	88%	86%	71%
	糖分を控える	85%	87%	87%	78%	75%	87%	68%	76%	79%	85%	83%	88%	73%

*現在取り組んでいない人のうち、今後取り組むと答えた人の割合
注) 各項目の基数は、現在当該項目に取り組んでいない人

<50% <65% <80% 80%<=

次世代の国づくり

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

4-6. 消費行動 住まい

「住まい」サマリー

アジア主要都市の住宅所有率は東京よりも軒並み高く、住宅購入意欲も同様に高い。
 また、各都市とも将来的には都心部よりも郊外での居住を望む傾向がある。

同居状況

- ・インド2都市とベトナム2都市、マニラは3世代以上同居の大家族、ジャカルタ、シンガポール、バンコクは複数子核家族、中国3都市は一人っ子核家族が中心。東京は、一人暮らしや夫婦のみの家族が多い。

持ち家率

- ・東京の居住用住宅所有率は29%と、アジア主要都市に比べ著しく低い。
- ・また、シンガポールおよび東京以外は戸建住宅の所有率が集合住宅よりも高い。

住宅のタイプ・ 居住地域

- ・現在、中国3都市、シンガポール、東京は過半数が集合住宅に居住。また、シンガポール以外の都市では7割以上が都市部に居住。一方シンガポールは半数弱が郊外居住と回答。
- ・将来の希望は、戸建「居住」率が低い都市（中国3都市・シンガポール・東京）では戸建「希望」率が上昇、一方他都市は逆傾向。地域を見ると、都市部「居住」率よりも都市部「希望」率が全都市で高い。

住宅購入意向

- ・東京では「3年以内に購入予定」「いずれ購入予定」を合わせても25%であるのに対し、他都市では過半数が購入意向あり。
- ・特にインド2都市、ジャカルタでは半数以上が「3年以内に購入予定」と回答。

住宅購入予算

- ・北京、上海、シンガポール、東京では、「予算5,000万円以上」が20%を超える。
- ・一方シンガポールを除くASEAN諸国では、半数前後が「予算1,000万円未満」と回答。

「同居家族の特徴」サマリー

インド2都市とベトナム2都市、マニラは3世代以上同居の大家族、ジャカルタ、シンガポール、バンコクは複数子核家族、中国3都市は一人っ子核家族が中心。東京は、一人暮らしや夫婦のみの家族が多い。

	同居人数				同居世代数			特徴
	1	2	3	4~	1	2	3~	
北京	3	13	58	26	17	67	16	【一人っ子核家族】 ・2世代で同居している家族が多く、 一人っ子政策の影響により子供は1人であることが多い。
上海	1	8	67	24	9	73	18	
広州	2	8	51	40	11	67	23	
デリー	1	6	13	80	13	53	34	【大家族】 ・3世代以上で同居している家族が約3割で、家族人数は多い。
ムンバイ	1	5	19	75	11	60	29	
ジャカルタ	2	5	23	70	18	58	24	【複数子核家族】 ・2世代で同居している家族が多く、子どもの数も複数人であると推察される。
ハノイ	0	2	13	85	8	59	33	
ホーチミン	1	3	12	84	12	56	31	【大家族】 ・3世代以上で同居している家族が約3割で、家族人数は多い。
シンガポール	2	9	18	71	14	71	15	
クアラルンプール	3	9	20	69	24	61	14	【複数子核家族】 ・2世代で同居している家族が多く、子供の数も複数人であると推察される。
マニラ	0	4	13	83	15	57	28	
バンコク	2	7	15	76	18	60	23	【複数子核家族】 ・2世代で同居している家族が多く、子供の数も複数人であると推察される。
東京	31	23	21	24	52	46	2	

凡例：

- 70%以上
- 50～69%
- 30～49%
- 10～29%
- 10%未満

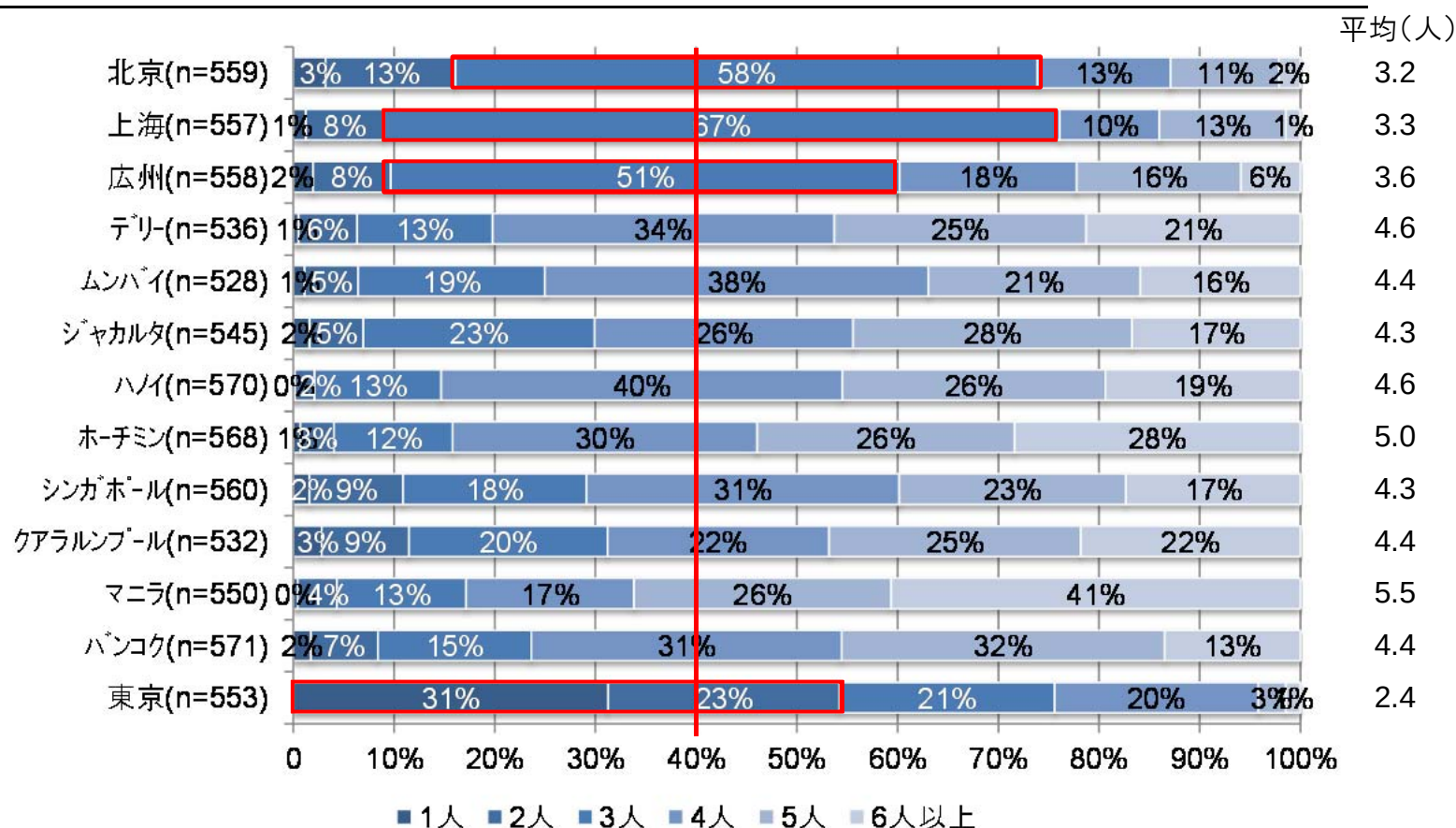
次世代の国づくり

出所：日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

同居人数(Q4)

中国3都市は一人っ子政策を反映して3人暮らしの家族が多く、東京では1人暮らし、2人暮らしの家族が多いのが特徴的。その他の都市では、6割以上が4人暮らし以上。

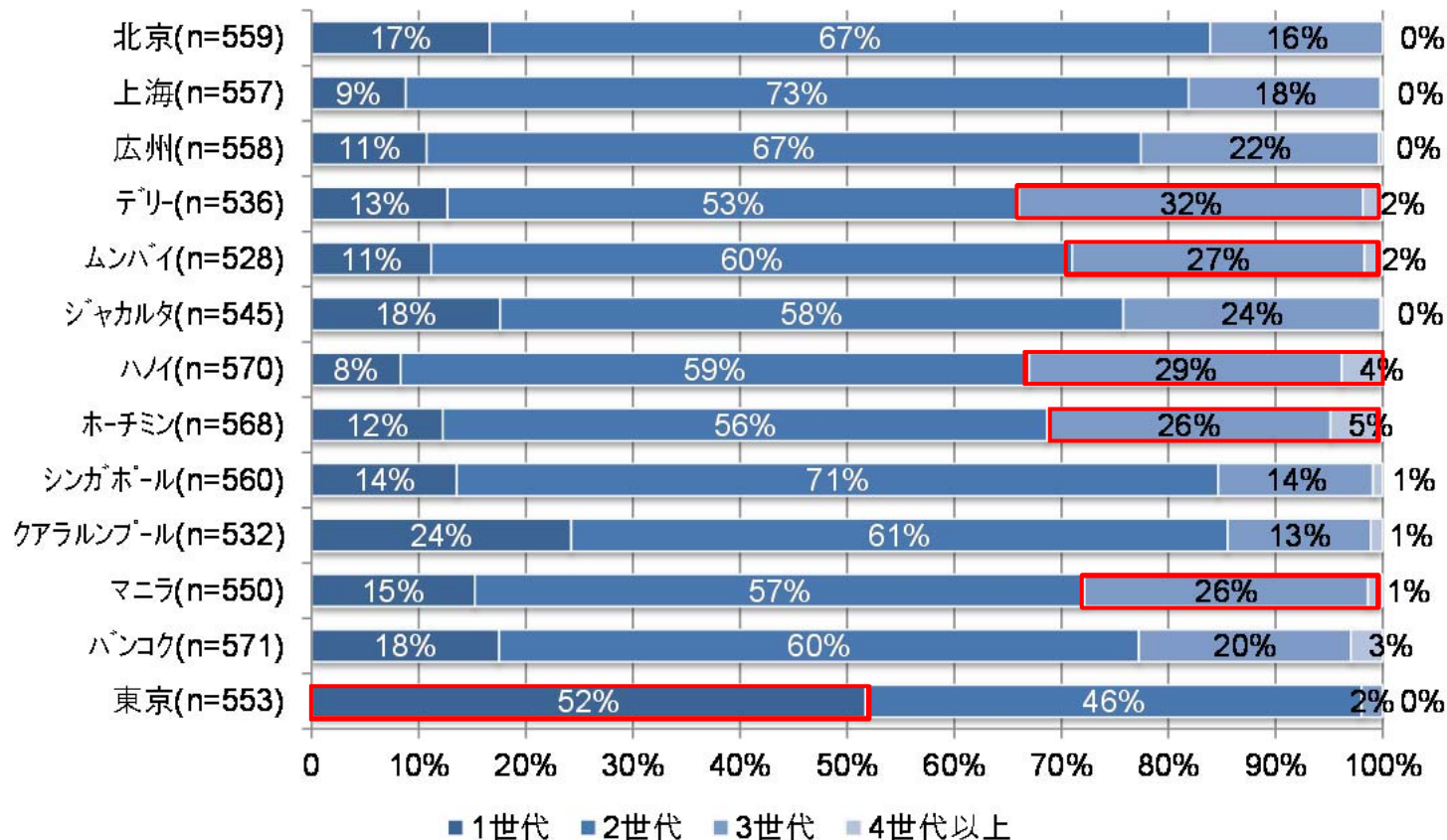
Q.一緒にお住まいの人数(あなたを含む)をお答えください。



同居世代数(Q5)

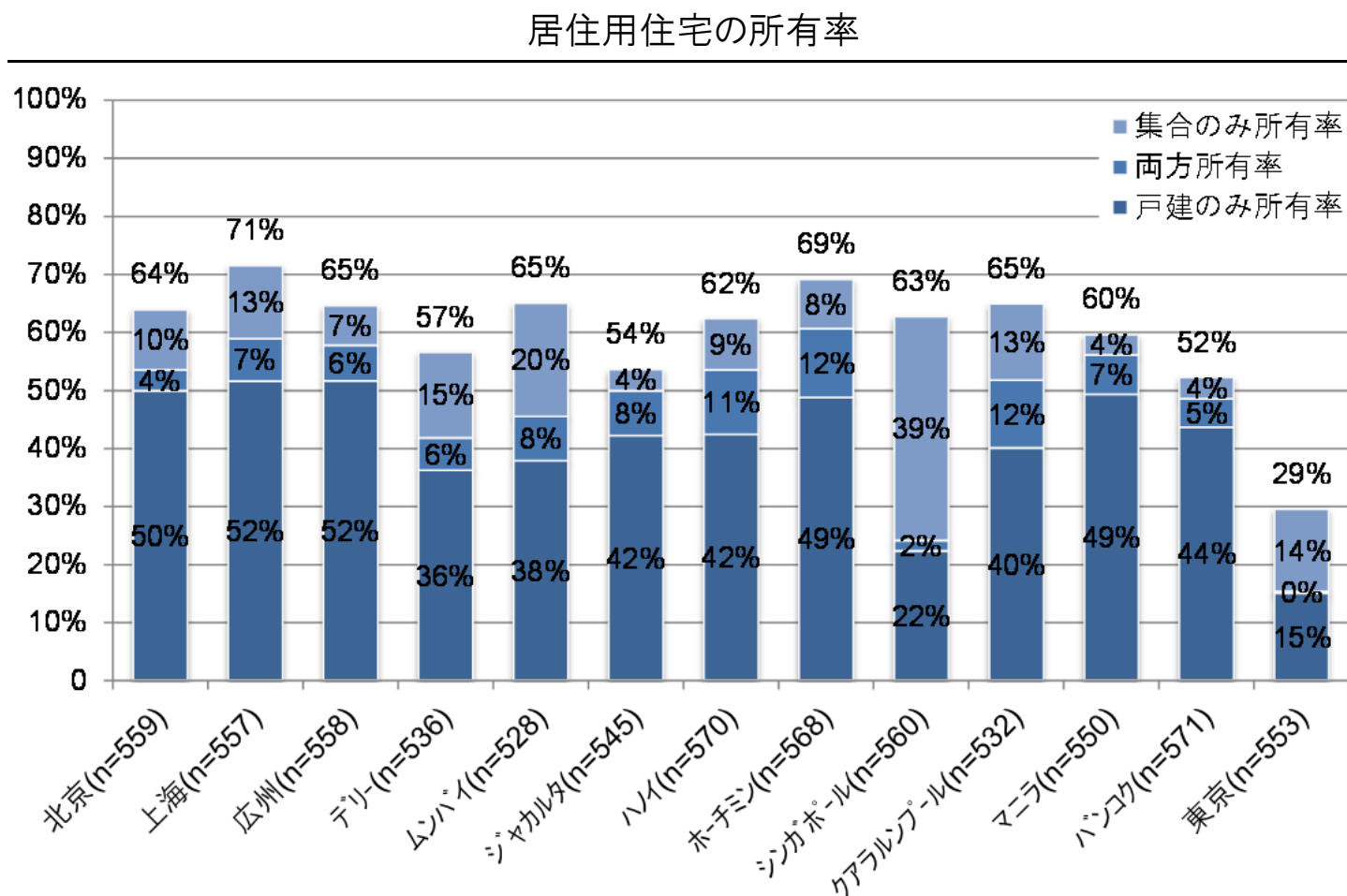
1世代同居が中心の東京を除くすべての都市で、2世代同居の家族が中心になっている。
インド2都市とベトナム2都市、マニラは3世代以上同居の大家族が約3割存在している。

Q.一緒にお住まいの方々はどなたですか。



居住用住宅の所有率(Q15)

東京の居住用住宅所有率は29%と、アジア主要都市に比べ著しく低い。
また、シンガポールおよび東京以外は戸建住宅の所有率が集合住宅よりも高い。

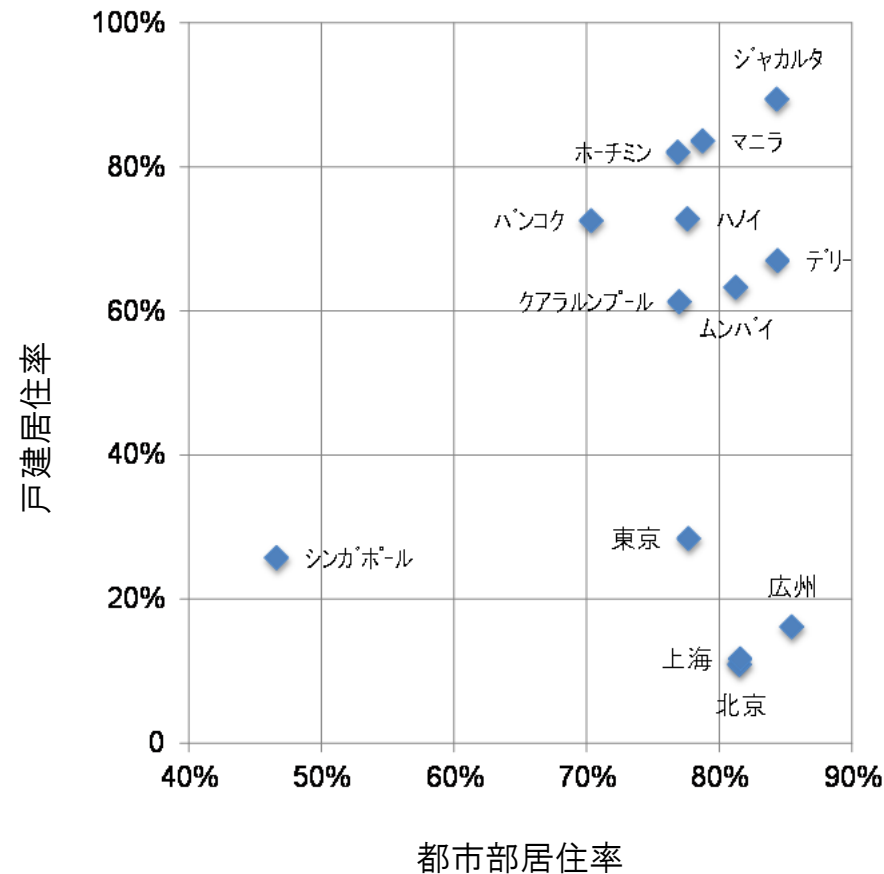


現在の住宅のタイプ(建て方・地域)(Q44)

中国3都市、シンガポール、東京は過半数が集合住宅に居住。

また、シンガポール以外の都市では7割以上が都市部に居住。一方シンガポールは半数弱が郊外居住と回答。

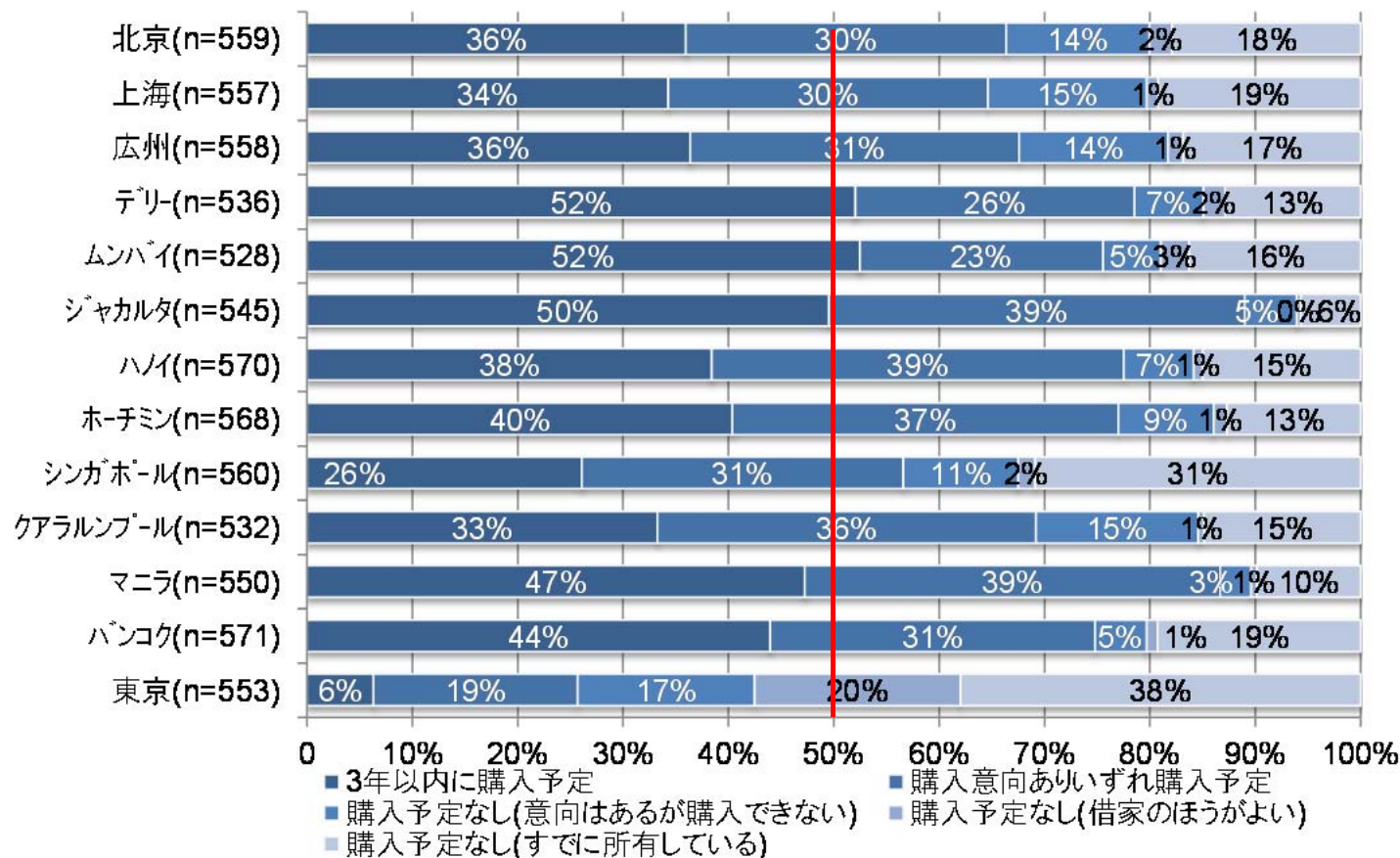
Q.あなたの現在の住居のタイプを教えてください。



今後の居住用住宅購入意向(Q43)

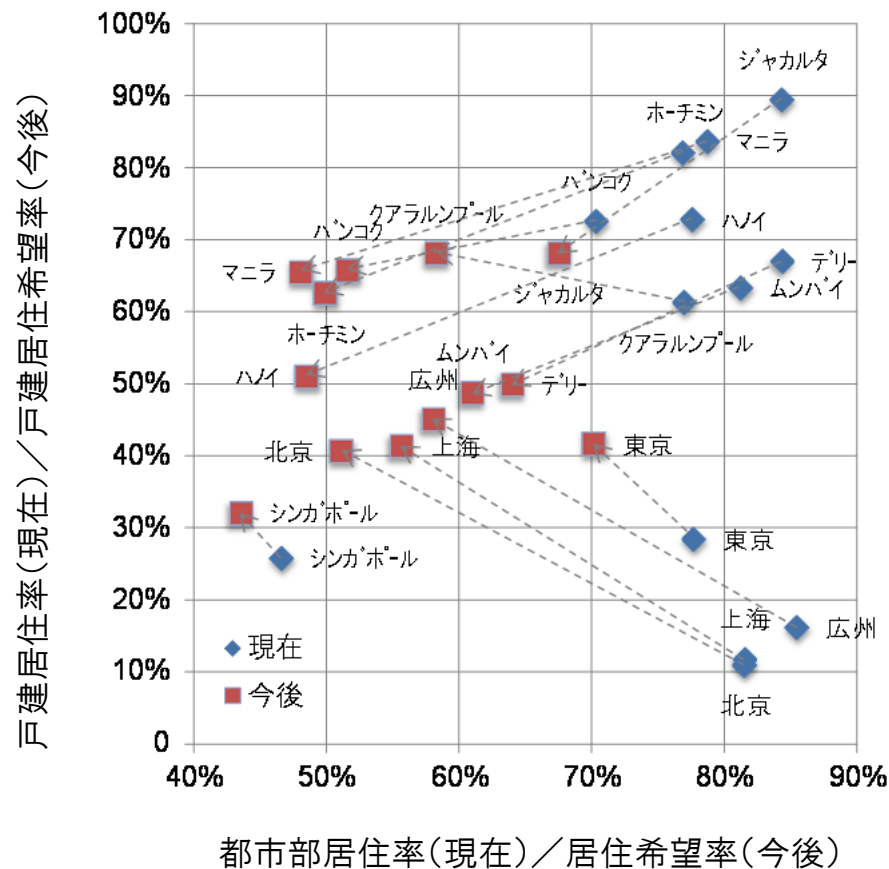
東京では「3年以内に購入予定」「いずれ購入予定」を合わせても25%であるのに対し、他都市では過半数が購入意向あり。特にインド2都市、ジャカルタでは半数以上が「3年以内に購入予定」と回答。

Q.あなたは今後、居住用の住宅を購入する予定がありますか。



戸建「居住」率が低い都市(中国3都市、シンガポール、東京)では戸建「希望」率が上昇、一方他都市は逆傾向。また、全都市で都市部「希望」率が都市部「居住」率よりも低い(潜在的な郊外居住ニーズの存在を示唆)。

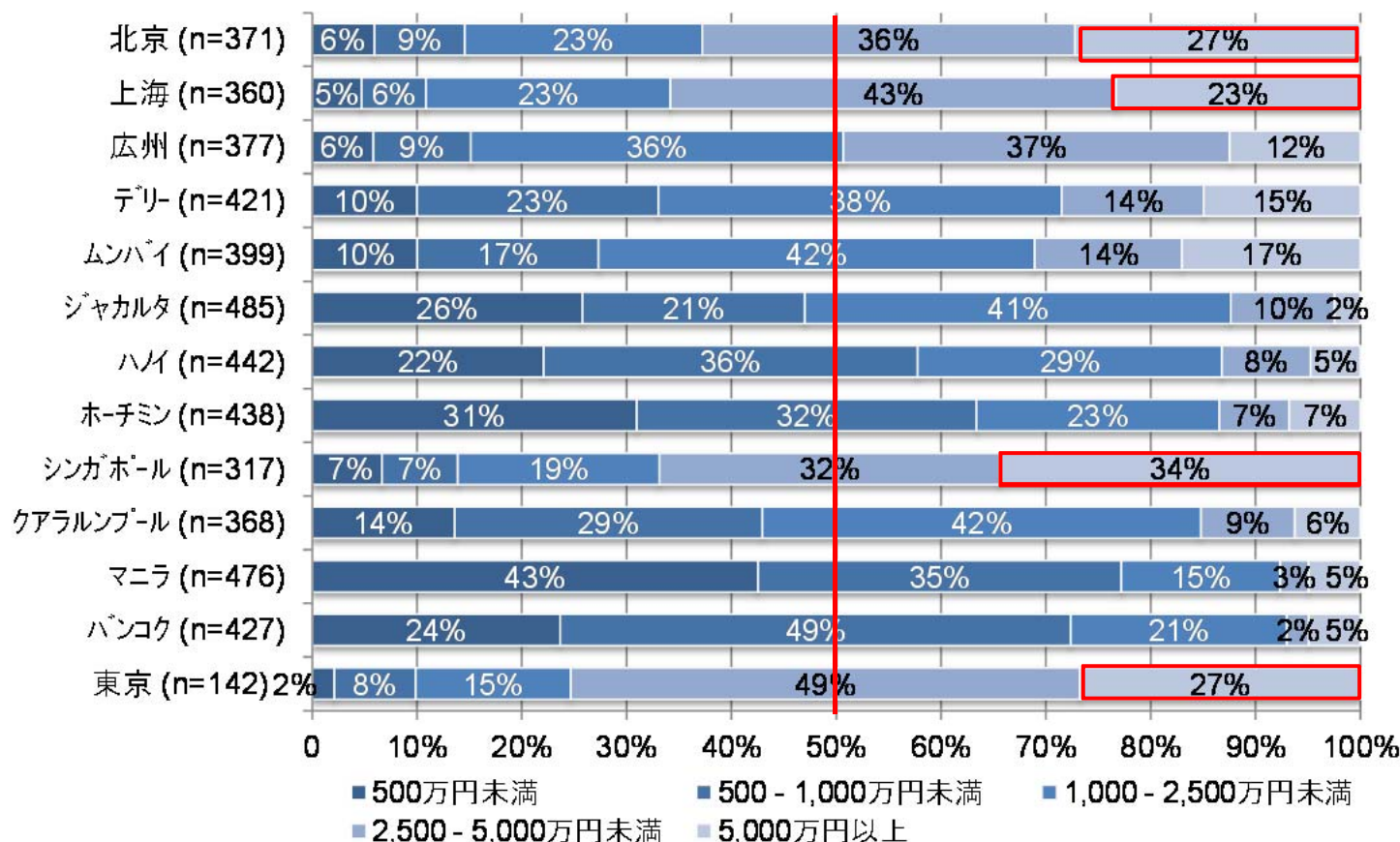
現在の／将来希望する住宅のタイプ(建て方・地域)



住宅購入予算(Q45)

北京、上海、シンガポール、東京では、「予算5,000万円以上」が20%を超える。
一方シンガポールを除くASEAN諸国では、半数前後が「予算1,000万円未満」と回答。

Q.購入する住宅の予算をお答えください。



注) 基数はQ43において「3年以内に購入予定」または「購入意向ありいずれ購入予定」を選択した人数

4-7. 消費行動 インフラ

「インフラ」サマリー

インフラ支出額が大きいのは東京とシンガポールで、マニラがそれに次ぐ。

支出額に対する認知を見ると、電気代が最も高いと感じられている。

インフラ支出額削減行動として「LED電球導入」「ガス供給業者変更」「排水再利用」などが取り組まれている。

1か月の インフラ支出額		- 東京とシンガポールの支出額が軒並み上位を占め、マニラがそれに次ぐ。 - クアラルンプールでは固定電話と固定インターネット、中国3都市では携帯電話の支出が他都市に比べ大きい。
インフラ支出額に 対する評価		- 多くの都市で最も高いと感じられているのは電気代。 - 中国3都市では逆に電気代が最も安いと感じられており、固定インターネットが最も高いと感じられている。
費用・使用量削減行動	電気	- 多くの都市で実施率が高いのは、行動容易な「こまめに照明を消す」「コンセントからプラグを抜く」こと。 「LED照明の導入」も、多くの都市で実施率が40%を超える。
	ガス	- 多くの都市で実施率が最も高いのは「シャワー回数・時間削減」。 - マニラ、デリー等5都市では「業者変更」の実行率が30%を超える。 - また、東京・シンガポールは「何もしていない」比率が高い。
	水道	- 多くの都市で実施率が高いのは「こまめな閉栓」や「シャワー回数・時間削減」。 - マニラ、広州等6都市では「排水再利用」の実行率が30%を超える。 - また東京は「何もしていない」比率が最も高い。

次世代の国づくり

出所：日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

1ヶ月のインフラ支出額(Q46)

東京とシンガポールの支出額が軒並み上位を占め、マニラがそれに次ぐ。

クアラルンプールでは固定電話と固定インターネット、中国3都市では携帯電話の支出が他都市に比べ大きい。

Q.あなたの世帯では、毎月の電気代・ガス代・水道代、通信費にひと月あたりどの程度支払っていますか。

	北京 (n=559)		上海 (n=557)		広州 (n=558)		テリ (n=536)		ムンバイ (n=528)		ジャカルタ (n=545)		(支払者比率(左)・ 支払額の中央値(円)(右))
電気	100%	2,419	100%	2,548	100%	3,226	99%	5,000	100%	3,333	85%	2,161	
ガス	95%	1,290	97%	1,613	86%	1,613	99%	1,667	99%	1,167	78%	864	
水道	99%	806	100%	968	100%	968	96%	833	91%	833	72%	864	
固定電話	68%	806	75%	806	67%	823	76%	1,667	80%	1,333	62%	864	
携帯電話	99%	3,226	100%	3,226	99%	3,226	99%	2,000	100%	1,667	84%	1,296	
固定インターネット	94%	1,613	96%	1,774	94%	1,613	88%	1,667	93%	1,500	68%	1,037	

	ハノイ (n=570)		ホーチミン (n=568)		シンガポール (n=560)		クアラルンプール (n=532)		マニラ (n=550)		バンコク (n=571)		東京 (n=553)		合計 (n=7,187)
電気	99%	2,326	100%	2,465	99%	8,333	99%	3,438	100%	6,818	99%	4,688	99%	6,000	99%
ガス	89%	1,395	83%	1,628	86%	2,917	82%	1,250	91%	2,273	87%	1,034	94%	4,000	89%
水道	97%	698	95%	930	97%	4,167	93%	938	98%	1,818	98%	1,250	98%	3,000	97%
固定電話	58%	465	65%	698	65%	1,667	56%	1,797	69%	2,273	65%	938	61%	2,000	58%
携帯電話	99%	2,326	98%	1,860	98%	6,667	97%	3,125	93%	2,273	96%	1,563	96%	8,000	99%
固定インターネット	93%	1,163	93%	1,163	90%	4,167	81%	3,750	84%	2,273	85%	2,031	85%	4,000	93%

上位3都市

下位3都市

次世代の国づくり

出所：日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

インフラ支出額に対する評価(Q47)

多くの都市で最も高いと感じられているのは電気代。

中国3都市では逆に電気代が最も安いと感じられており、固定インターネットが最も高いと感じられている。

Q.あなたの世帯では、電気・ガス・水道、通信に関する費用をどのように感じていますか。

	北京		上海		広州		デリー		ムンバイ		ジャカルタ		(利用者比率(左)・評価値(右))
電気	100%	0.47	100%	0.53	100%	0.50	99%	0.57	100%	0.54	85%	0.57	注) 評価値(指数化) 「非常に安い」を0点、 「非常に高い」を1点として回答を 数値化し、都市ごとに平均した値。 基数 当該インフラを利用している人数。
ガス	95%	0.49	97%	0.53	86%	0.52	99%	0.51	99%	0.50	78%	0.50	
水道	99%	0.51	100%	0.55	100%	0.52	96%	0.47	91%	0.45	72%	0.51	
固定電話	68%	0.55	75%	0.55	67%	0.54	76%	0.46	80%	0.50	62%	0.50	
携帯電話	99%	0.59	100%	0.58	99%	0.59	99%	0.49	100%	0.51	84%	0.52	
固定インターネット	94%	0.62	96%	0.63	94%	0.62	88%	0.52	93%	0.53	68%	0.53	

	ハノイ		ホーチミン		シンガポール		クアラルンプール		マニラ		バンコク		東京		合計
電気	99%	0.61	100%	0.63	99%	0.70	99%	0.67	100%	0.66	99%	0.59	99%	0.69	0.60
ガス	89%	0.64	83%	0.68	86%	0.61	82%	0.55	91%	0.61	87%	0.56	94%	0.62	0.56
水道	97%	0.53	95%	0.54	97%	0.65	93%	0.49	98%	0.55	98%	0.50	98%	0.60	0.53
固定電話	58%	0.48	65%	0.51	65%	0.57	56%	0.54	69%	0.51	65%	0.51	61%	0.58	0.52
携帯電話	99%	0.56	98%	0.57	98%	0.63	97%	0.60	93%	0.52	96%	0.57	96%	0.68	0.57
固定インターネット	93%	0.53	93%	0.54	90%	0.62	81%	0.65	84%	0.53	85%	0.58	85%	0.63	0.58

安いと感じる <0.5 <0.55 <0.6 0.6<= 高いと感じる

電力代・電力使用量削減行動(Q48)

多くの都市で実施率が高いのは、行動容易な「こまめに照明を消す」「コンセントからプラグを抜く」こと。
「LED照明の導入」も、多くの都市で実施率が40%を超える。

Q.あなたは電気代削減・電力使用量削減に向けた取り組みをしていますか。

	北京 (n=558)	上海 (n=557)	広州 (n=556)	テリ (n=533)	ムンバイ (n=526)	ジャカルタ (n=464)	ハノイ (n=567)	ホーチミン (n=567)	シンカ ポール (n=555)	クアラ Lumpur (n=529)	マニラ (n=549)	バンコク (n=566)	東京 (n=545)
こまめに照明を消している	51%	38%	41%	73%	73%	60%	85%	83%	86%	82%	93%	81%	75%
エアコンの設定温度をこまめに調整している	19%	24%	19%	44%	38%	44%	58%	57%	31%	34%	42%	26%	37%
エアコンを使用しない生活をしている	24%	19%	17%	21%	26%	19%	14%	22%	48%	43%	35%	44%	24%
冷蔵庫の設定温度を上げている	29%	30%	23%	35%	25%	14%	54%	54%	12%	12%	28%	9%	24%
コンセントをプラグから抜いている	47%	47%	45%	46%	44%	44%	45%	50%	36%	43%	77%	70%	39%
冷蔵庫・洗濯機をエネルギー効率の 高い省エネ機器に買い替えた	39%	39%	36%	37%	33%	30%	39%	45%	35%	38%	40%	23%	14%
LED照明を導入した	62%	59%	58%	62%	58%	47%	59%	51%	33%	37%	57%	38%	31%
断熱材・断熱ガラスを導入した	20%	19%	11%	27%	26%	13%	20%	23%	4%	10%	13%	15%	4%
太陽熱温水器を設置した	23%	24%	21%	28%	29%	11%	31%	34%	5%	12%	8%	8%	1%
太陽光発電パネルを設置した	6%	10%	7%	23%	21%	8%	16%	18%	3%	9%	7%	8%	1%
エネルギー消費の可視化をした (スマートメーターを導入した)	23%	25%	14%	22%	18%	14%	11%	16%	5%	12%	10%	5%	1%
その他の取り組みを実施している	10%	7%	8%	16%	12%	13%	37%	33%	21%	22%	38%	24%	4%
特に何もしていない	5%	8%	12%	3%	5%	8%	3%	2%	4%	4%	1%	2%	13%
<30%	<40%	<50%	50%=>										

注) 基数はQ46 1ヶ月のインフラ支出額において、電気代が「0」でない人

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

ガス代・ガス使用量削減行動(Q49)

多くの都市で実施率が最も高いのは「シャワー回数・時間削減」。
マニラ、デリー等5都市では「業者変更」の実行率が30%を超える。
また、東京、シンガポールは「何もしていない」比率が高い。

Q.あなたはガス代削減・ガス使用量削減に向けた取り組みをしていますか。

	北京 (n=530)	上海 (n=538)	広州 (n=482)	デリー (n=529)	ムンバイ (n=525)	ジャカルタ (n=424)	ハノイ (n=507)	ホーチミン (n=470)	シンガ ポール (n=483)	クアラ Lumpur (n=436)	マニラ (n=502)	バンコク (n=494)	東京 (n=522)
シャワーの回数・時間を減らす	55%	55%	54%	60%	57%	28%	51%	53%	41%	40%	44%	31%	32%
ガス器具を使わない生活をする	17%	18%	19%	27%	19%	30%	11%	13%	9%	21%	14%	28%	4%
ガス小売の業者を安い業者に変更した	13%	15%	16%	37%	30%	33%	26%	28%	13%	30%	47%	21%	2%
その他の取り組みを実施している	12%	11%	10%	21%	18%	21%	50%	45%	19%	20%	35%	31%	7%
特に何もしていない	29%	33%	30%	14%	20%	22%	11%	12%	40%	26%	11%	20%	60%
<30%	<40%	<50%	50%<=										

注) 基数はQ46 1ヶ月のインフラ支出額において、ガス代が「0」でない人

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

水道代・水道使用量削減行動(Q50)

多くの都市で実施率が高いのは「こまめな閉栓」や「シャワー回数・時間削減」。
マニラ、広州等6都市では「排水再利用」の実行率が30%を超える。
また東京は「何もしていない」比率が最も高い。

Q.あなたはガス代削減・ガス使用量削減に向けた取り組みをしていますか。

	北京 (n=553)	上海 (n=557)	広州 (n=556)	デリー (n=512)	ムンバイ (n=482)	ジャカルタ (n=393)	ハノイ (n=552)	ホーチミン (n=539)	シンガ ポール (n=545)	クアラ Lumpur (n=493)	マニラ (n=540)	バンコク (n=557)	東京 (n=543)
食器を洗う際など、こまめに蛇口を閉めている	59%	48%	48%	63%	62%	41%	66%	73%	67%	69%	80%	72%	51%
洗濯の回数を減らす	21%	23%	18%	41%	33%	30%	29%	32%	24%	31%	35%	34%	23%
シャワーの回数・時間を減らす	48%	42%	44%	55%	48%	43%	26%	26%	46%	47%	57%	34%	26%
洗濯・食器洗い排水を掃除等に利用している	38%	36%	41%	36%	31%	20%	15%	19%	28%	20%	44%	22%	10%
節水蛇口を導入している	47%	41%	37%	33%	33%	32%	51%	53%	29%	22%	21%	25%	6%
水道だけではなく井戸も利用している	2%	5%	4%	15%	16%	21%	15%	20%	8%	11%	14%	8%	1%
その他の取り組みを実施している	7%	7%	9%	9%	9%	15%	41%	33%	19%	18%	32%	22%	6%
特に何もしていない	9%	16%	16%	9%	12%	14%	4%	5%	11%	11%	4%	10%	33%
<30% <40% <50% 50%<=													

注) 基数はQ46 1ヶ月のインフラ支出額において、水道代が「0」でない人

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

4-8. 消費行動 観光

サマリー

アジア12都市の中間層以上の6割以上が日本への旅行意向を持っている。
 旅行の目的としては、日本の独自性を感じることが選ばれており、買い物や都市景観が続く。
 「温泉」や「地元の人々との交流」、「スキー」を観光目的に上げる都市もあった。

日本への 旅行予定・意向

- 中国3都市とシンガポールを除く都市では、3年以内の日本への旅行意向を持つ人が6割以上いる。
- 意向はあるが踏み切れない人は、中国3都市とベトナム2都市、シンガポール、クアラルンプールで2割を超え、この層を含めると、中国3都市とシンガポールでも日本への旅行意向を持つ人が6割を超える。

日本への旅行に 踏み切れない理由

- 北京を除くすべての都市で、旅行にかかるコストが日本旅行に踏み切れない理由となっている。
- 中国3都市、シンガポールでは福島第一原発事故による放射能漏れの影響が懸念されている。
- インド2都市、ジャカルタ、ホーチミン、マニラ、バンコクでは言葉の問題が理由となっている。

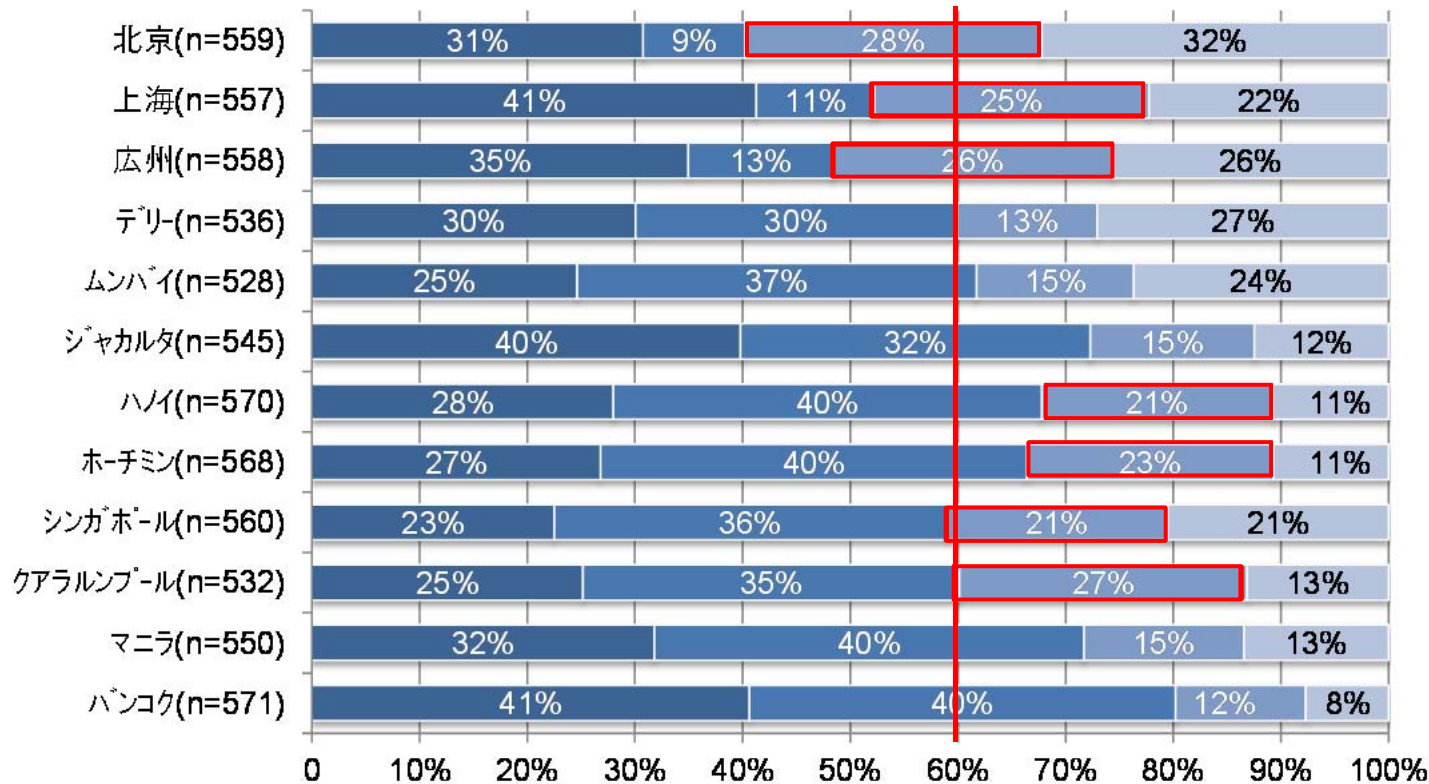
日本への 観光目的

- 共通傾向として、日本の独自性を感じることが観光目的として選ばれており、買い物や都市景観が続く。
- 中国3都市、シンガポールでは「温泉」を観光目的とする回答者が5割を超えている。
- インド2都市、ジャカルタ、マニラでは「地元の人々との交流」を目的とする人が、ベトナム2都市では「スキー」を目的とする人がそれぞれ3割以上いる。

日本への旅行予定・意向(Q53)

中国3都市とシンガポールを除く都市では、3年以内の日本への旅行意向を持つ人が6割以上いる。
意向はあるが踏み切れない人は、中国3都市とベトナム2都市、シンガポール、クアラルンプールで2割を超え、
この層を含めると、中国3都市とシンガポールでも日本への旅行意向を持つ人が6割を超える。

Q.あなたは、日本への観光旅行にご興味はありますか。



■ 1年以内に予定あり ■ 3年以内に意向あり ■ 意向はあるが踏み切れない ■ 予定はない

注) 予定はない: 「日本以外の他の国に旅行しようと思っている」、「日本に行くなら、国内旅行に行きたい」、「旅行をする予定はない」の合計

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

日本旅行に踏み切れない理由(Q54)

北京を除くすべての都市で、旅行にかかるコストが日本旅行に踏み切れない理由となっている。
中国3都市、シンガポールでは福島第一原発事故による放射能漏れの影響が懸念されている。
インド2都市、ジャカルタ、ホーチミン、マニラ、バンコクでは言葉の問題が理由となっている。

Q.日本へ観光旅行に踏み切ることができない理由は何ですか。

	北京 (n=154)	上海 (n=142)	広州 (n=145)	デリー (n=70)	ムンバイ (n=77)	ジャカルタ (n=83)	ハノイ (n=122)	ホーチミン (n=130)	シンガ ポール (n=115)	クアラ Lumpur (n=142)	マニラ (n=82)	バンコク (n=69)
滞在費(ホテルや食事など)が高そう	25%	37%	44%	43%	36%	39%	56%	56%	68%	72%	74%	61%
渡航費(飛行機代など)が高そう	16%	25%	34%	44%	44%	47%	56%	59%	57%	65%	66%	45%
VISA(渡航許可)の取得が難しい・面倒だから	27%	25%	37%	16%	22%	30%	20%	25%	5%	14%	47%	17%
言葉が通じないと思うから	24%	22%	20%	31%	35%	39%	23%	33%	17%	20%	34%	32%
放射性物質による悪影響が心配だから	49%	51%	38%	11%	16%	10%	11%	12%	41%	26%	8%	6%
宗教的な理由で食事が合わないと思うから	2%	2%	1%	17%	21%	10%	2%	3%	6%	7%	1%	0%
良いと思うパッケージツアーがないため	8%	7%	3%	20%	21%	7%	11%	12%	3%	5%	9%	9%
その他	18%	18%	17%	7%	9%	7%	18%	16%	6%	6%	6%	19%

<30%
<40%
<50%
50%<=

注) 基数はQ53で「意向はあるが踏み切れない」を選択した人数

日本への観光目的(Q55)

共通傾向として、日本の独自性を感じることが観光目的として選ばれており、買い物や都市景観がそれに続く。
 中国3都市、シンガポールでは「温泉」を観光目的とする回答者が5割を超えている。
 インド2都市、ジャカルタ、マニラでは人々との交流、ベトナム2都市ではスキーを目的とする人が3割以上いる。

Q.あなたは、日本への観光旅行の目的はなんですか。

	北京 (n=406)	上海 (n=464)	広州 (n=434)	デリー (n=396)	ムンバイ (n=406)	ジャカルタ (n=484)	ハノイ (n=516)	ホーチミン (n=515)	シンガ ポール (n=477)	クアラ Lumpur (n=468)	マニラ (n=479)	バンコク (n=536)
自然景観/田園風景	80%	78%	79%	70%	69%	63%	83%	84%	83%	81%	81%	89%
伝統建築/伝統的町並み	47%	47%	49%	57%	59%	60%	65%	62%	53%	65%	66%	53%
伝統文化(相撲/歌舞伎など)	41%	41%	43%	56%	54%	53%	73%	72%	42%	56%	56%	49%
アニメ/漫画	32%	23%	26%	22%	21%	22%	16%	23%	16%	26%	35%	30%
地元の人々との交流	17%	19%	17%	36%	34%	30%	16%	18%	20%	22%	31%	23%
家電製品の買い物	37%	40%	42%	49%	56%	32%	45%	44%	18%	25%	52%	32%
ファッション/ブランド品の買い物	36%	41%	44%	43%	50%	30%	29%	27%	39%	37%	40%	31%
その他の買い物	20%	21%	22%	32%	31%	27%	26%	25%	37%	33%	28%	43%
先進的な都市景観	33%	38%	38%	29%	32%	32%	44%	44%	19%	44%	30%	44%
繁華街の賑わい	30%	32%	29%	24%	23%	26%	42%	42%	20%	28%	24%	31%
日本食	56%	58%	51%	46%	44%	38%	62%	68%	70%	65%	72%	70%
温泉	55%	60%	50%	28%	30%	20%	27%	30%	53%	48%	43%	37%
スキー	19%	21%	21%	14%	15%	7%	34%	37%	18%	28%	21%	21%
ゴルフ	4%	5%	6%	9%	10%	1%	7%	9%	1%	4%	5%	9%
医療サービス	3%	3%	3%	2%	3%	4%	13%	14%	1%	3%	7%	4%
その他	0%	0%	0%	0%	1%	1%	3%	2%	2%	2%	4%	0%

<30% <40% <50% 50%<=

注) 基数はQ52で「経験あり(観光旅行)」を選択、またはQ53で「1年以内に予定あり」「3年以内に意向あり」
 「意向はあるが踏み切れない」を選択した人数

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

4-9. インフラ満足度

「インフラ満足度」サマリー

公共設備/都市環境満足度は「大気・空気環境」を除き、すべての都市でおおむね満足度が高い。
一方、交通環境についてはベトナムの2都市が「航空」以外の満足度で低い値にとどまっている。

公共設備/ 都市環境満足度

- ベトナム2都市は「下水道」「ごみ/衛生」「大気・空気環境」、中国3都市、クアラルンプール、マニラ、東京は「大気・空気環境」の満足度が低い。
- その他の項目は概ね満足度が高く、特に「電力」「ガス」「上水道」「インターネット環境」は高くなっている。

交通環境満足度

- 多くの都市において「航空」の満足度は7割を超えており、陸上交通に比べ高い満足度となっている。
- ベトナム2都市は他の都市と比べて、満足度が非常に低い値にとどまっている。

公共設備/都市環境満足度(Q40)

ベトナム2都市は「下水道」「ごみ/衛生」「大気・空気環境」、
 中国3都市、クアラルンプール、マニラ、東京は「大気・空気環境」の満足度が低い。
 その他の項目はおおむね満足度が高く、特に「電力」「ガス」「上水道」「インターネット環境」は高くなっている。

Q.あなたは、現在お住まいの都市で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。

	北京 (n=559)	上海 (n=557)	広州 (n=558)	テリ- (n=536)	ムンバイ (n=528)	ジャカルタ (n=545)	ハノイ (n=570)	ホ-チミン (n=568)	シンガ ポール (n=560)	クアラ ルンプール (n=532)	マニラ (n=550)	バンコク (n=571)	東京 (n=553)	合計 (n=7,186)
電力	0.79	0.79	0.80	0.79	0.83	0.74	0.72	0.74	0.78	0.71	0.65	0.81	0.60	0.75
ガス	0.80	0.79	0.74	0.78	0.79	0.71	0.64	0.65	0.77	0.72	0.62	0.77	0.65	0.73
上水道	0.73	0.75	0.73	0.74	0.76	0.70	0.67	0.69	0.78	0.68	0.71	0.77	0.69	0.72
下水道	0.62	0.62	0.55	0.68	0.67	0.60	0.45	0.45	0.77	0.65	0.52	0.61	0.69	0.61
ごみ/衛生	0.56	0.58	0.51	0.64	0.63	0.60	0.42	0.41	0.75	0.55	0.46	0.59	0.64	0.56
大気・空気環境	0.28	0.36	0.41	0.63	0.57	0.60	0.40	0.38	0.71	0.46	0.41	0.55	0.49	0.48
病院施設	0.58	0.63	0.63	0.76	0.73	0.70	0.57	0.60	0.67	0.65	0.72	0.68	0.65	0.66
ビジネスの場としての環境	0.70	0.75	0.73	0.75	0.72	0.70	0.64	0.70	0.66	0.64	0.70	0.69	0.65	0.69
公園/緑地環境	0.64	0.68	0.65	0.73	0.66	0.63	0.60	0.64	0.72	0.53	0.54	0.60	0.62	0.63
インターネット環境	0.66	0.69	0.69	0.78	0.76	0.72	0.73	0.75	0.73	0.64	0.73	0.72	0.72	0.72
教育環境	0.62	0.64	0.65	0.78	0.77	0.73	0.65	0.68	0.70	0.61	0.74	0.70	0.66	0.69

注) 評価値(指数化): 「非常に安い」を0点、「非常に高い」を1点として回答を数値化し、都市ごとに平均した値。

満足していない <0.5 <0.6 <0.7 0.7<= 満足している

交通環境満足度(Q41)

多くの都市において「航空」の満足度は7割を超えており、陸上交通に比べ高い満足度となっている。
ベトナム2都市は他の都市と比べて、満足度が非常に低い値にとどまっている。

Q.あなたは、現在お住まいの都市で暮らすにあたり、次の項目にどの程度満足していますか。

	北京		上海		広州		デリー		ムンバイ		ジャカルタ		(利用者比率(左)・評価値(右))
	利用率	評価値	利用率	評価値	利用率	評価値	利用率	評価値	利用率	評価値	利用率	評価値	
歩道(都市内)	99.8%	0.60	99.8%	0.66	99.8%	0.63	99.3%	0.69	98.1%	0.65	97.6%	0.52	注) 評価値(指数化) 「非常に安い」を0点、 「非常に高い」を1点として回答を数 値化し、都市ごとに平均した値。 基数 当該交通機関を利用している人数。
車道(都市内)	99.6%	0.50	99.6%	0.59	99.8%	0.57	99.8%	0.68	100.0%	0.60	99.6%	0.55	
車道(都市間)	97.7%	0.62	98.2%	0.66	98.7%	0.65	99.4%	0.68	99.2%	0.65	99.1%	0.58	
鉄道(都市内)	98.9%	0.63	98.6%	0.69	98.9%	0.67	98.3%	0.73	99.2%	0.67	95.0%	0.60	
鉄道(遠距離)	95.3%	0.67	96.9%	0.71	96.4%	0.66	98.3%	0.72	98.9%	0.70	95.0%	0.64	
バス(都市内)	99.1%	0.61	99.1%	0.65	99.1%	0.63	96.8%	0.72	97.9%	0.66	96.7%	0.55	
バス(遠距離)	88.6%	0.65	93.5%	0.67	96.6%	0.66	96.3%	0.70	95.6%	0.68	94.9%	0.59	
航空	95.7%	0.70	97.1%	0.75	96.1%	0.73	95.5%	0.81	95.6%	0.77	98.7%	0.68	

	ハノイ		ホーチミン		シンガポール		クアラルンプール		マニラ		バンコク		東京		合計	
歩道(都市内)	97.7%	0.49	97.1%	0.52	97.9%	0.72	94.4%	0.51	96.7%	0.59	98.6%	0.56	99.8%	0.58	98.2%	0.59
車道(都市内)	98.9%	0.40	99.6%	0.45	98.4%	0.69	99.6%	0.50	100.0%	0.54	99.8%	0.55	84.8%	0.57	98.4%	0.55
車道(都市間)	98.4%	0.46	98.2%	0.49	94.3%	0.70	99.1%	0.55	99.8%	0.57	99.1%	0.65	82.3%	0.59	97.2%	0.60
鉄道(都市内)	87.3%	0.46	83.8%	0.48	90.0%	0.65	92.7%	0.58	91.6%	0.56	90.4%	0.59	98.0%	0.71	94.0%	0.62
鉄道(遠距離)	91.2%	0.52	85.6%	0.51	81.6%	0.64	86.8%	0.56	81.6%	0.51	89.3%	0.57	91.0%	0.70	91.3%	0.63
バス(都市内)	95.1%	0.41	93.0%	0.47	96.6%	0.63	88.3%	0.44	94.4%	0.50	96.5%	0.53	85.5%	0.66	95.3%	0.57
バス(遠距離)	92.3%	0.45	89.8%	0.50	89.1%	0.60	88.3%	0.53	93.1%	0.59	93.7%	0.59	74.0%	0.66	91.2%	0.60
航空	90.9%	0.70	95.2%	0.74	95.0%	0.76	95.1%	0.69	94.7%	0.61	91.9%	0.75	78.1%	0.64	93.8%	0.72

満足していない <0.5 <0.6 <0.7 0.7<= 満足している

次世代の国づくり

出所: 日本総研「2013年度 アジア主要都市コンシューマインサイト比較調査」を基に日本総研作成

5. お問い合わせ

本件に関するお問い合わせ、ご確認は下記までお願いいたします。

株式会社日本総合研究所 総合研究部門
社会・産業デザイン事業部
ビジネスリサーチグループ

シニアマネージャー 新角 耕司
E-mail: shinkado.koji@jri.co.jp
〒550-0001 大阪市西区土佐堀2丁目2番4号 土佐堀ダイビル

リサーチアナリスト 青山 温子
E-mail: aoyama.atsuko@jri.co.jp
〒141-0022 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。